スズキ車をお買いあげいただきありがとうございます。

車は取扱いを誤ると事故や故障の原因となります。正しい取扱いをご理解いただくため運転する前に、必ず取扱説明書をお読みください。そして安全で快適なバイクライフをお楽しみください。
またメンテナンスノートもぜひお読みください。

- この取扱説明書には、お車の正しい取扱いかた、安全な運転のしかた、簡単な点検、整備の方法などについて説明してあります。
- **「必読！安全運転のために」**および次のシンボルマークで示したところは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠警 告	取扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害を生じる可能性がある危害の程度を示しています。
⚠注 意	取扱いを誤った場合、傷害を負う可能性がある危害の程度を示しています。
注 記	取扱いを誤った場合、物的損害の発生する危害の程度を示しています。
アドバイス	お車のために守っていただきたいこと、知っておくと便利なことを示しています。

お車受け取りの際は、お買いあげいただいたスズキ販売店より取扱説明書、メンテナンスノートを受け取り、下記の説明を受けてください。

◇ お車の正しい取扱い方法
◇ 日常点検、定期点検
◇ 保証内容と保証期間
◇ 保証書の発行 《保証書登録票の記入・捺印》

- お車を譲られるときは、次に所有される方のためにこの取扱説明書とメンテナンスノートをお渡しください。
- 仕様の変更などにより、この取扱説明書の内容とお車が一致しない場合があります。ご了承ください。

☆ この車は、平成28年排出ガス規制適合車です。

もくじ

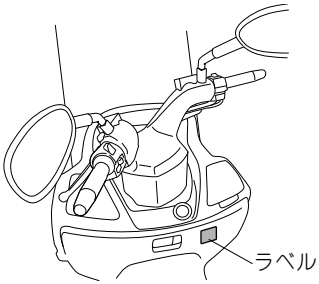
必読！安全運転のために	運転の前に.....2	運転中は.....5	車の整備など.....8
取扱いの方法	各部の名称.....10 メータの見かた.....12 スイッチの使いかた.....22 ハンドルロック.....27	シート.....27 トランク.....28 フロントボックス.....29 ミニボックス.....30	ガソリンの給油.....31 リヤショックアブソーバ.....33
正しい運転操作	エンジンのかけかた.....34 発進のしかた.....36	ブレーキの使いかた.....39 止まりかた.....40	
お車の点検	日常点検、定期点検.....42	日常点検項目.....43	
簡単な整備	簡単な整備.....44 スロットルケーブル.....44 ブレーキ.....45	エンジンオイル.....47 冷却水.....50 エアクリーナ.....52	ヒューズ.....54 バッテリ.....55 タイヤ.....58
お車の手入れ	洗車.....60 プラスチック製部品.....61 スロットルケーブル ブーツ.....61	つや消し塗装.....61 アルミホイール.....62 保管のしかた.....62 環境を保護するために.....63	
サービスデータ	主要諸元.....64	サービスデータ.....65	車台番号.....65

運転の前に

この章にあげた、日常走行する上での基本的な注意事項を守り、安全運転を心がけてください。

車の購入当初は、誰でも細心の注意をはらって運転しますが、慣れるに従い注意を怠ってしまいます。事故防止のため、いつも細心の注意をはらって運転しましょう。

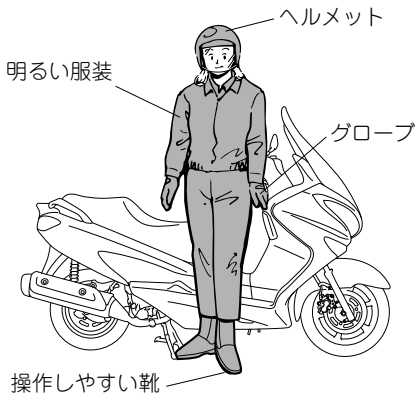
重要な事項を書いたラベルが車に貼られています。これらの注意をいつもお守りください。



◇転倒などの際のけがを最小とするため、ヘルメットや手袋などの保護具を正しく着用してください。
◇取扱説明書をよくお読みください。

■ 安全な運転は正しい服装から

- ヘルメットを必ず着用してください。PSC、SGまたはJISマークのある二輪車用ヘルメットを必ずかぶり、あごひもをしっかり締めましょう。ヘルメットは、頭にしっくり合って圧迫感のないものをお選びください。
- 保護具や保護性の高い服装を着用してください。
- ヘルメットシールドまたはゴーグルを使用してください。
- グローブを着用してください。グローブは摩擦に強い皮製が適しています。
- 服装は明るく目立ち、体の露出の少ない長袖、長ズボンを着用してください。万一のとき身体への衝撃を軽減します。
- 運転を阻害するような服装はやめましょう。そで口の広い服や、すそ広のズボンなどは運転操作の邪魔になります。
- 運転操作のしやすいくるぶしまで覆う靴をはいてください。



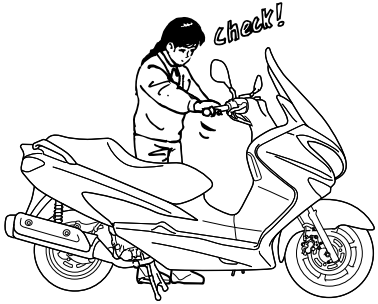
⚠警 告

- **ヘルメットを正しくかぶってください。正しくかぶらないと事故の際死亡または重大な傷害を負う可能性が高くなります。**
- **運転者と同乗者は、必ずヘルメット、保護具および保護性の高い服を着用してください。**

うしろの席に乗る人は、背丈の長いジャケットやコートを着用しないでください。テールランプやターンシグナルランプが覆い隠されて、後続の車に見落とされるおそれがあります。
やむを得ず着用する場合は、ジャケットやコートのすそをお尻の下に敷くなどして、テールランプやターンシグナルランプが覆い隠されないようにしてください。

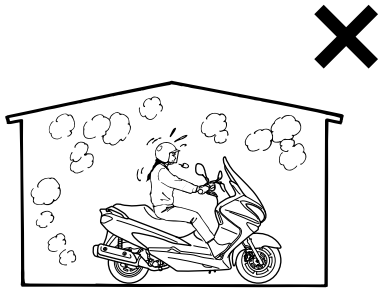
■ 点検整備をしましょう

事故や故障を未然に防ぐため、日常点検と定期点検を必ず実施してください。
いつもと違う音やにおいがしたり、液漏れした場合などは、スズキ販売店で点検を受けてください。



■ エンジンをかけるときは

風通しのよい場所でエンジンをかけてください。



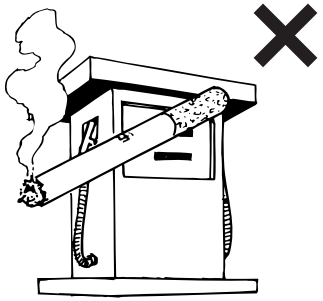
⚠警告

排気ガスには一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。閉めきったガレージの中など、風通しの悪い場所では、エンジンをかけないでください。排気ガスにより、ガス中毒を起こすおそれがあります。

運転の前に

■ 給油するときは

ガソリンを給油するときは、必ずエンジンをとめて火気を近づけないでください。

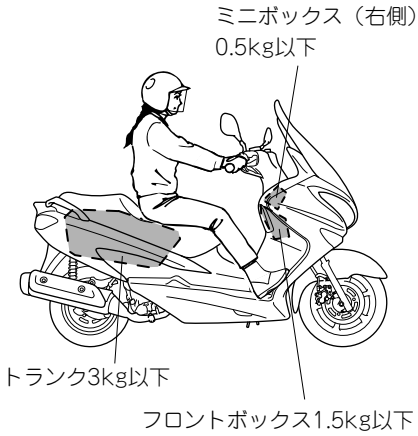


■ 乗車定員は2名

二人乗りでは通行できない道路区分もあります。また、二人乗りは年令や経験年数の制限もあります。二人乗りに関する条件や交通規制をしっかり守り、マナーのよい運転を心がけましょう。

■ 荷物

- 荷物を積むと、積まないときにくらべ操縦性・安定性が変わります。
- 荷物はゴムバンドなどでしっかり固定し、積み過ぎないようにしてください。
- 荷物の積載は下記重量までです。下記重量を超えて積み過ぎないようにしてください。
- 荷物は下記以外の場所に積まないでください。



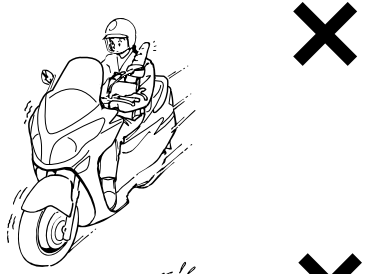
⚠警 告

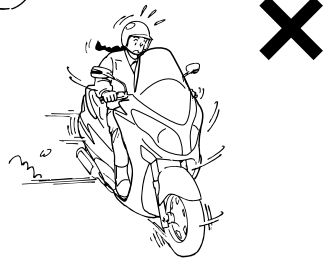
- **フロントボックスをロックしていない状態で走行するとフロントボックスが開き走行に支障をきたすおそれがあります。走行前にレバーを引いて、確実にロックされているか確認し、走行中は、開閉操作をしないでください。**
- **荷物を積むときは、マフラーやエンジンなどの高温になるところに荷物などが触れないようにしてください。荷物や車両の火災の原因となるおそれがあります。**

運転中は

■ 乗りかた

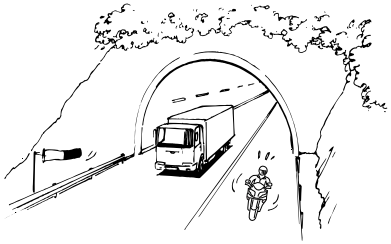
- 運転中は両手でハンドルを握り、足をステップボードに置いてください。同乗者には両手で身体をしっかり固定させ、足は後席用ステップボードに乗せさせてください。
- 急激なハンドル操作や片手運転は絶対にしないでください。横すべりや転倒の原因となります。





■ 風が強い日は

横風が強いとき、トンネルの出口や橋の上、あるいは大型トラックに追い越されたり追い越したりするときは、横風を受けて車が流されることがあります。
スピードを抑え、ハンドルをしっかり握って運転しましょう。



■ 雨の日、雪の日は

- 路面がすべりやすいので急加速、急減速、急ブレーキは避けてください。
- ふだんよりスピードをおとして、早めにブレーキをかけてください。

■ 冠水した場所は走行しない

万一、冠水した場所を走行した時は、ブレーキの効きを確かめながら安全な場所に停車し、スズキ販売店にご連絡ください。
また、次の項目などについて点検を受けてください。

- ブレーキの効き具合
- コネクタ、配線への浸水
- ドライブベルトの滑り
- ベアリングなどの潤滑不良
- ギヤオイルなどのオイル量および質の変化（オイルが白濁している場合は、水が混入していますので、オイル交換が必要です。）

注 記

冠水した場所や深い水たまりを走行しないでください。エンスト、電装品の故障、ドライブベルトの滑り、エンジンの破損などの原因となります。

運転中は

■ 駐車するとき

車から離れるときは、盗難抑止のため必ずハンドルをロックし、キーは抜いてお持ちください。

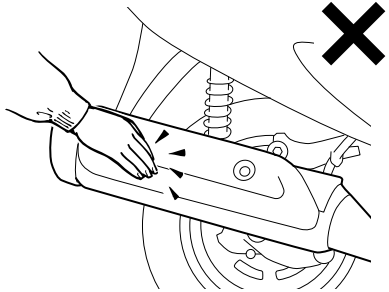
☞27ページの「ハンドルロック」参照

- 交通の邪魔にならない場所に駐車してください。
- 違法駐車はしないでください。
- 車は平坦でしっかりした地面の場所に、ハンドルを左にきって駐車してください。ハンドルを右にきった状態での駐車は避けてください。
- やむをえず傾斜地、砂利の上、でこぼこな所、やわらかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、車が転倒したり、動いたりしないように十分留意してください。

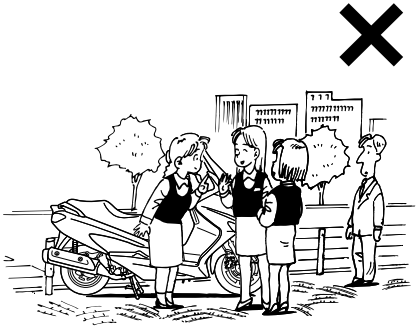
⚠注 意

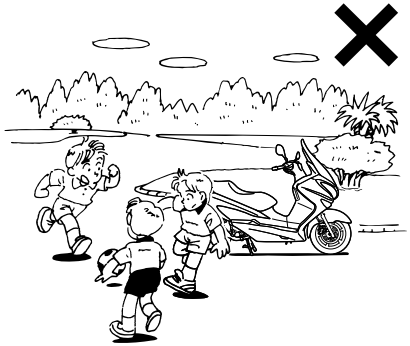
- **エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、ブレーキ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。**
- **マフラに内蔵されている触媒装置は高温になります。車の周りに枯れ草、木材、紙、油脂類などの燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。火災の原因となるおそれがあります。**

- エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、ブレーキ、エンジンなどに触れないでください。



● 他の人がマフラ、ブレーキ、エンジンなどに触れることのない場所に駐車してください。





■ 車を押して移動するとき

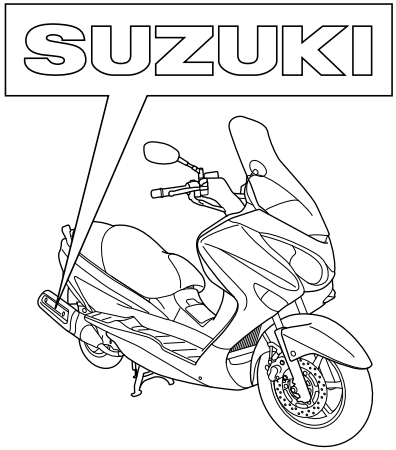
車を押して移動するときは、メインスイッチを**OFF**にしてください。

車の整備など

■ 不正改造はやめましょう

車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪くしたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることになります。このような改造は法律に触れるばかりでなく、他の人の迷惑となります。
車の改造は保証の適用を除外されますのでご了承ください。

- マフラには、スズキ純正部品を表す“SUZUKI”マークが刻印されています。



- 自己流のエンジン調整、部品の取外しは行わないでください。エンジン調整はスズキ販売店にご相談ください。
- あなたのお車に適したスズキ純正部品および指定・推奨油脂類をお使いいただくことをおすすめします。純正部品は厳しく検査し、スズキ車に適するように作られています。純正部品には下記の表示があります。



- この車は、排出ガス規制適合車です。
  マフラには排気ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。
  マフラを変更すると、排出ガス規制に適合しなくなるおそれがありますので、マフラを交換する場合はスズキ販売店にご相談ください。

■ 触媒装置について

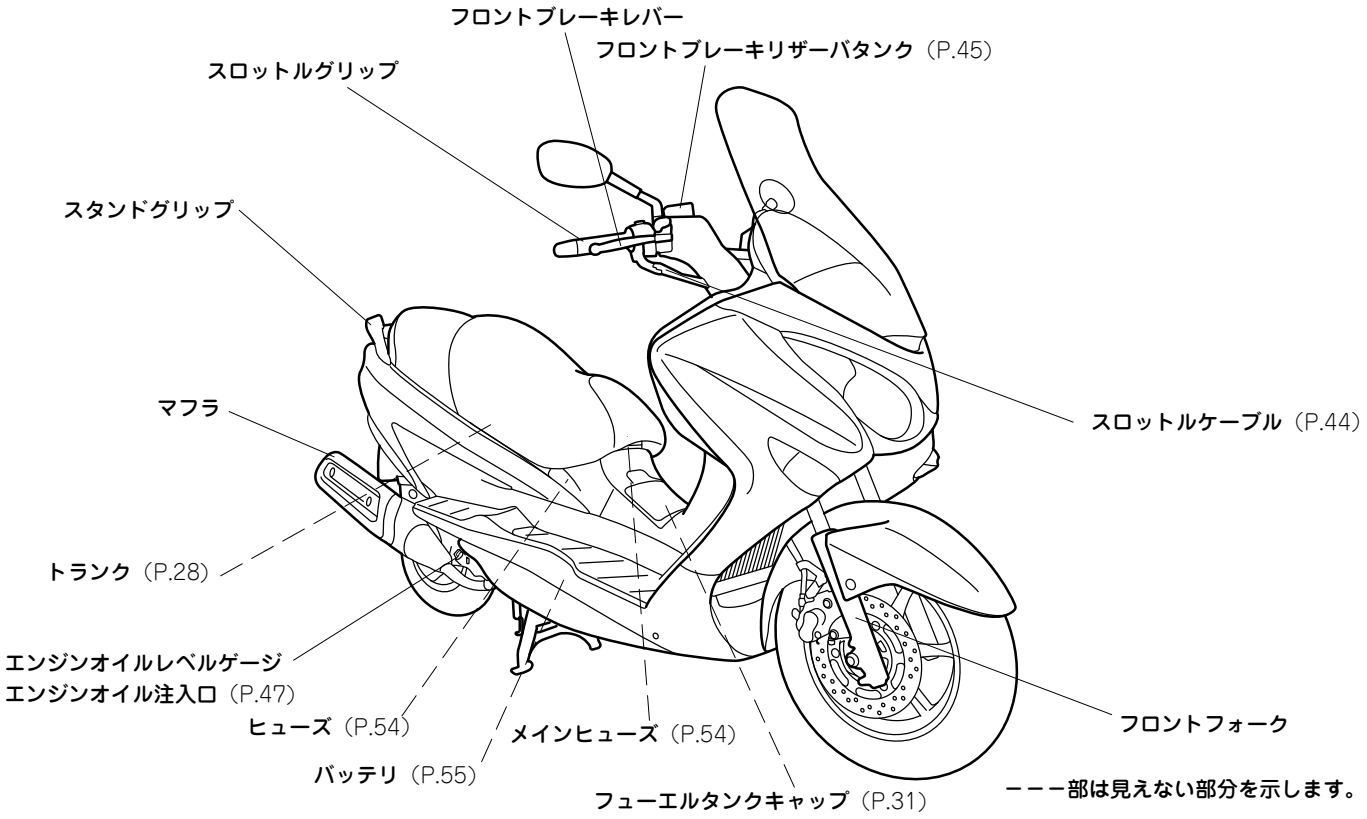
この車のマフラには、触媒装置が内蔵されています。この触媒装置の働きによって排出ガスの有害物質の排出量を低減します。特別な点検および整備は必要ありませんが、不適切な運転や誤った取扱いをすると触媒装置が異常な高温になり、触媒装置および他の関連部品が損傷する恐れがありますのでご注意ください。

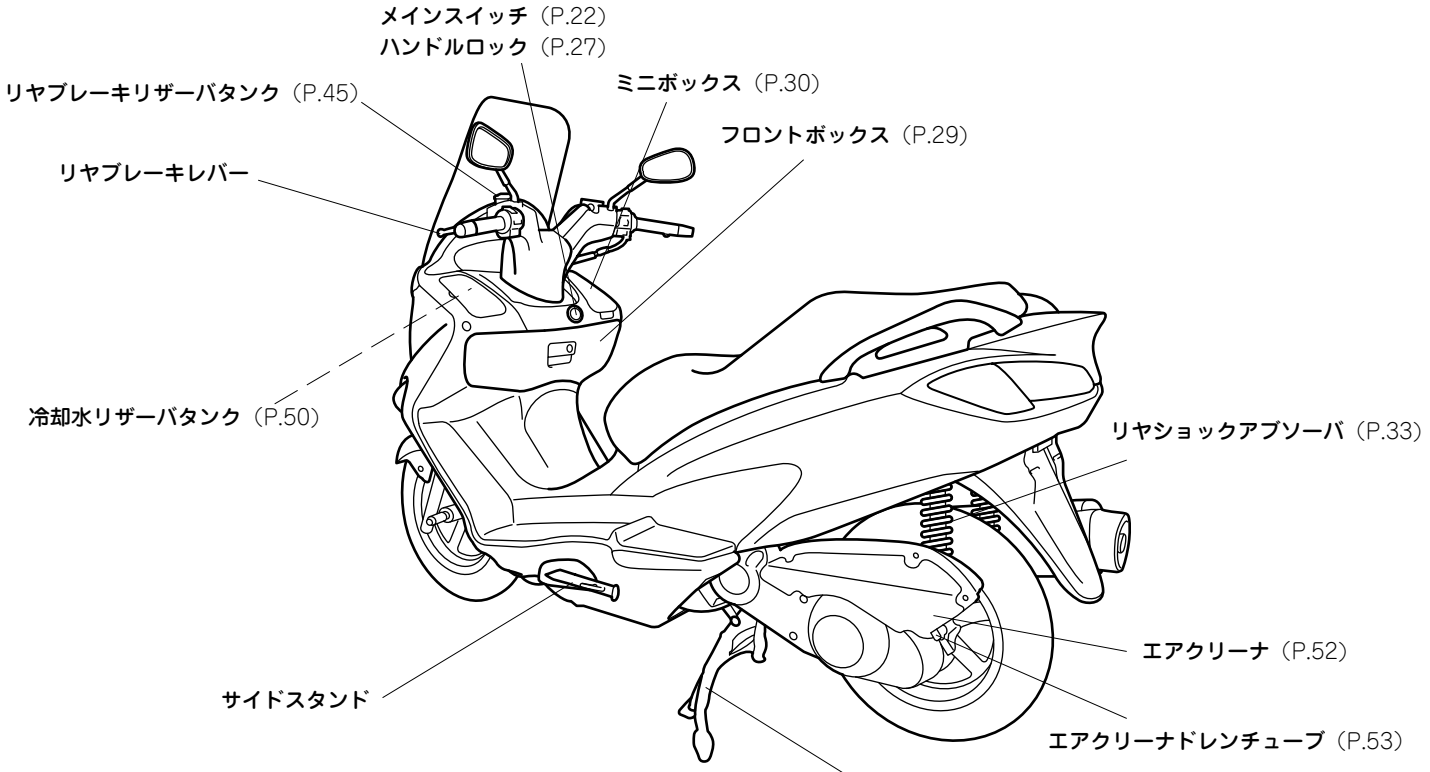
注 記

触媒装置および他の関連部品の損傷を避けるために、下記の注意事項をお守りください。

- **必ず無鉛ガソリンを使用してください。**
- **エンジンの性能の低下や不調を感じたときはスズキ販売店で点検を受けてください。**
- **走行中にメインスイッチを操作して、エンジンを停止しないでください。**
- **診断テスト中などで、スパークプラグワイヤを取り外した状態でエンジンを始動しないでください。**
- **不要な空ふかしや長時間のアイドリングは行わないでください。**
- **フューエルタンク内のガソリンを使い切ること(ガス欠)のないようにしてください。**

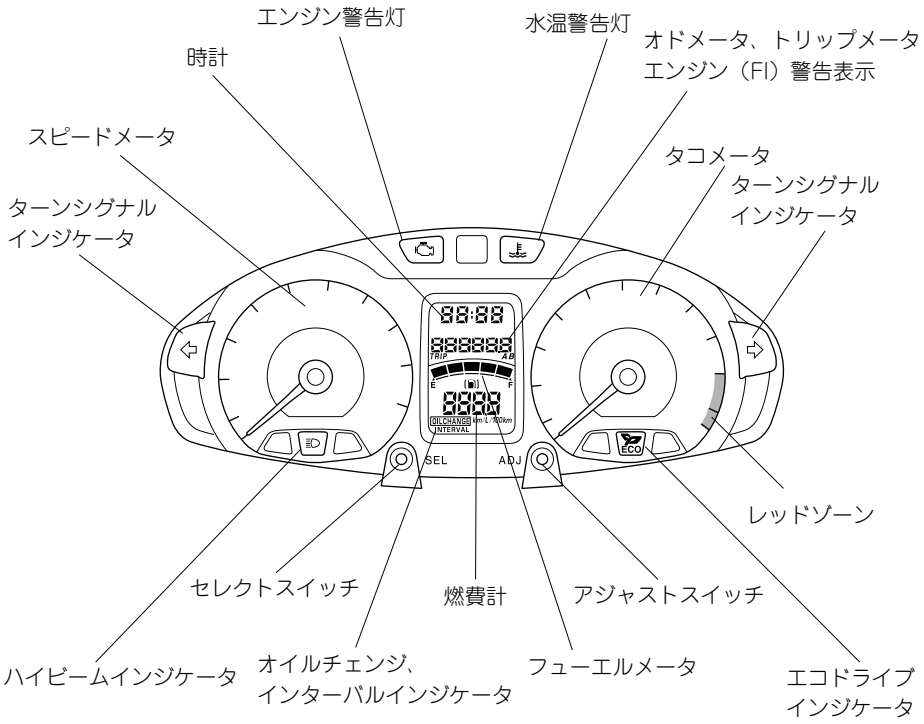
各部の名称


フロントブレーキレバー
フロントブレーキリザーバタンク（P.45）
スロットルグリップ
スタンドグリップ
マフラ
スロットルケーブル（P.44）
トランク（P.28）
エンジンオイルレベルゲージ
エンジンオイル注入口（P.47）
ヒューズ（P.54）
メインヒューズ（P.54）
フロントフォーク
バッテリ（P.55）
フューエルタンクキャップ（P.31）
－－－部は見えない部分を示します。



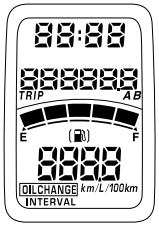
－－－部は見えない部分を示します。

メータの見かた



メインスイッチを**ON**にすると

- スピードメータ、タコメータの指針が最大まで振れて“0”に戻ります。
- エンジン警告灯、水温警告灯、エコドライブインジケータが3秒間点灯します。
- 全液晶ディスプレイセグメント表示（チェックパターン表示）を行います。



⚠警 告

走行中にスイッチ操作を行うと危険です。停止中に操作してください。

■ スピードメータ

車の走行速度をkm/hの単位で示します。

■ タコメータ

エンジンの回転速度を示します。

アドバイス

- **エンジンの回転速度がレッドゾーンに入らないよう注意して走行してください。**
- **レッドゾーンに入ってしまった場合は、速やかにスロットルをゆるめ、エンジンの回転速度を下げてください。**

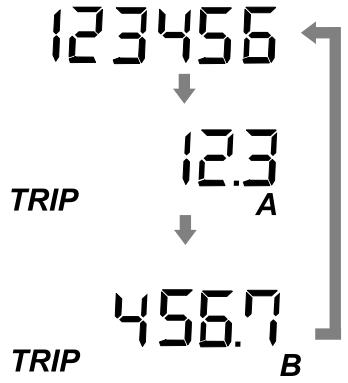
＜レッドゾーン＞

レッドゾーンとは、エンジンの許容回転速度を超えた回転域を示します。レッドゾーン内で使用すると、エンジンが円滑に回転しなくなり、エンジン寿命に悪影響を与えます。

■ オドメータ/トリップメータ

メインスイッチを**ON**にするとチェックパターンを3秒表示後、トリップメータ**A**または**B**もしくはオドメータを表示します。

- セレクトスイッチを押すと下図のように切り換わります。
- メインスイッチを **OFF** にしても設定は記憶されます。



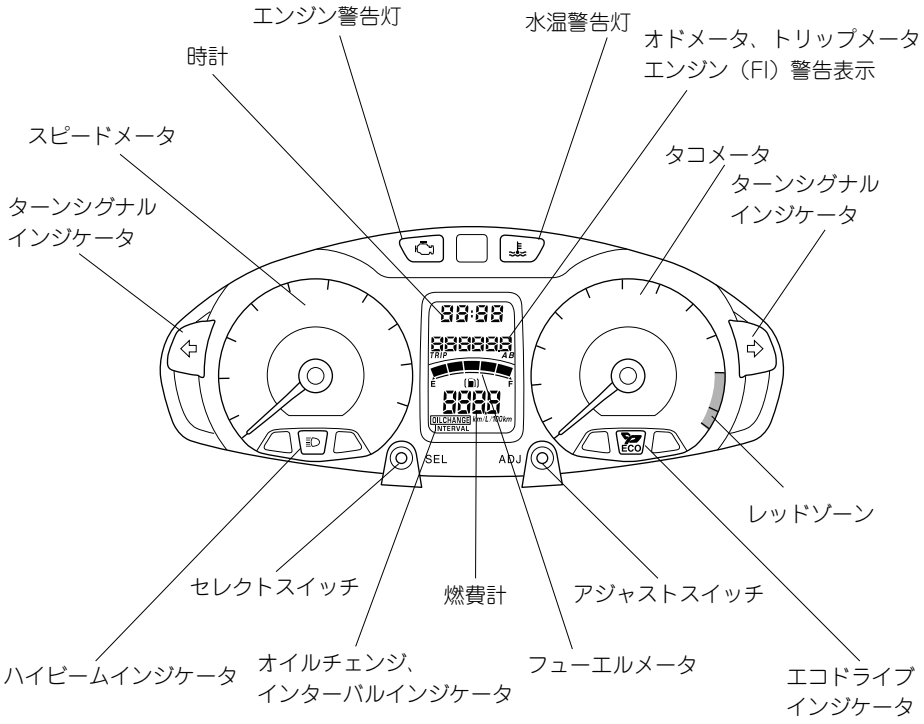
＜オドメータ＞

- 走行した総距離をkmの単位で示します。
- オイル交換や定期点検などの目安となります。
- オドメータの表示範囲は、0～999999kmです。999999kmを超えると、オドメータは999999kmを表示し続けます。

＜トリップメータ＞

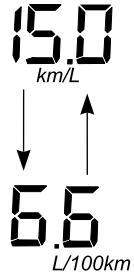
- **TRIP A、B** 2つのモードがあります。表示範囲は0.0～9999.9kmです。9999.9を超えると0.0に戻ります。
- アジャストスイッチを約2秒間押すとリセットされ、“0.0”を表示します。リセットされるのは表示している **TRIP A**または **B** だけで、表示していない方はそのままです。
- **TRIP A**または **B**をリセットすると、それに対応する燃費計もリセットされます。一定距離を走行するまで燃費計は“－－ .－ ”を表示します。

メータの見かた



■ 燃費計

- TRIP A、B 各々の走行距離に対する燃費を表示します。燃費計をリセットするには、トリップメータをリセットしてください。
- 表示には、1L あたりの走行距離を示す“km/L”と100km走行するのに必要な燃料を示す“L/100km”があり、セレクトスイッチを2秒間押すと切り換わります。
- “km/L”の表示範囲は0.1～99.9で、これ以外のときは表示しません。
- “L/100km”の表示範囲は2.0～99.9で、これ以外のときは表示しません。



アドバイス

燃費計は、おおよその値を示したものです。実際の値とは異なります。

■ エンジン(FI)警告表示

燃料噴射機構に異常が起きると、オドメータにFIと表示します。同時にエンジン警告灯が点灯または点滅します。

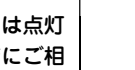


注 記

エンジン（FI）警告表示が点滅または点灯表示されたら、すぐにスズキ販売店にご相談ください。

アドバイス

- **オドメータに FI と点灯表示されエンジン警告灯が点滅している場合は、始動ができません。**
- **エンジン（FI）警告表示が点灯していても走行できない場合もあります。**
- **次の表示が出た場合は、エンジンが始動できません。**



以下の点検を行ってください。

- **エンジンストップスイッチが ⊗ になっていないか**
- **ヒューズが切れていないか**
- **ワイヤハーネスに異常がないか**
- **サイドスタンドが出ていないか**

CHEC表示が消えないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

■ 時計

時分を表示します。（12時間表示）

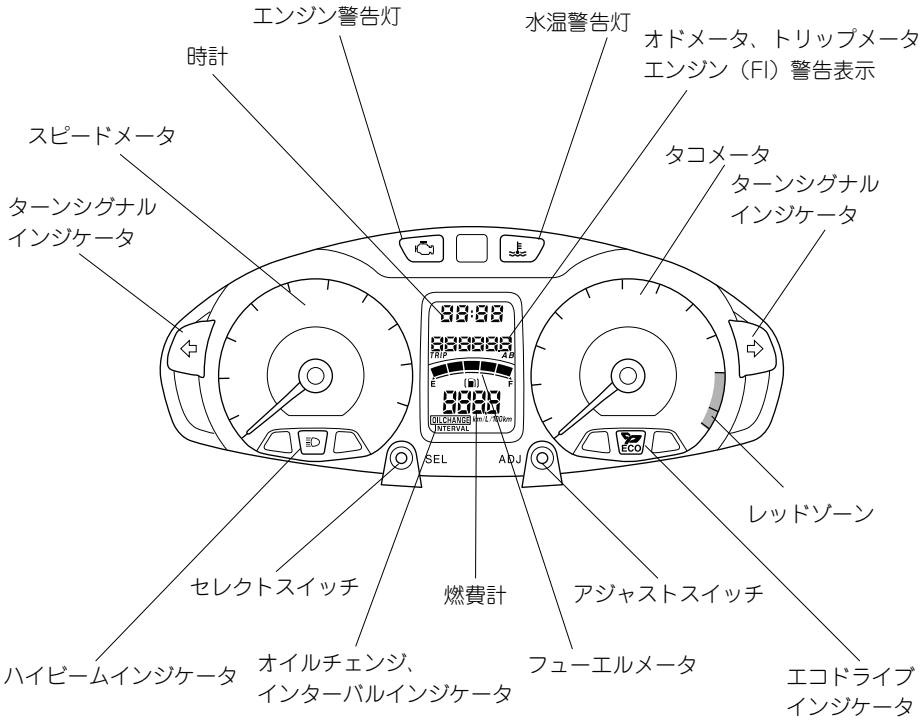
＜調整のしかた＞

- メインスイッチを**ON**にして、時計を表示させます。セレクトスイッチ、アジャストスイッチを同時に約2秒以上押すと表示が点滅します。
- セレクトスイッチで時表示、アジャストスイッチで分表示を調整します。
- セレクトスイッチ、アジャストスイッチを同時に約2秒以上押し通常表示に戻します。

アドバイス

メインスイッチOFFでも、メータには微少電流が流れ、電力を消費しています。長期間（2か月以上）乗らない場合は、バッテリを外しておいてください。詳細は、P.62のアドバイスをご覧ください。

メータの見かた



■ フューエルメータ

フューエルタンクのガソリン残量の目安を表示します。

表示		ガソリン残量
マーク点灯	E F	満タン
		：
マーク点滅		約2.5L
		約1.5L

■点灯　□消灯　■点滅を表す

注 記

フューエルタンク内のガソリンを使い切る(ガス欠)と触媒装置などの損傷の原因になります。ガソリンの残量に注意してください。

アドバイス
- ⛽マークが点滅したら、すみやかにガソリンを給油してください。
- サイドスタンド状態では、フューエルメータはガソリンの量を正しく表示できません。車体を垂直にした状態でメインスイッチを ON にし、確認してください。

■ インジケータ

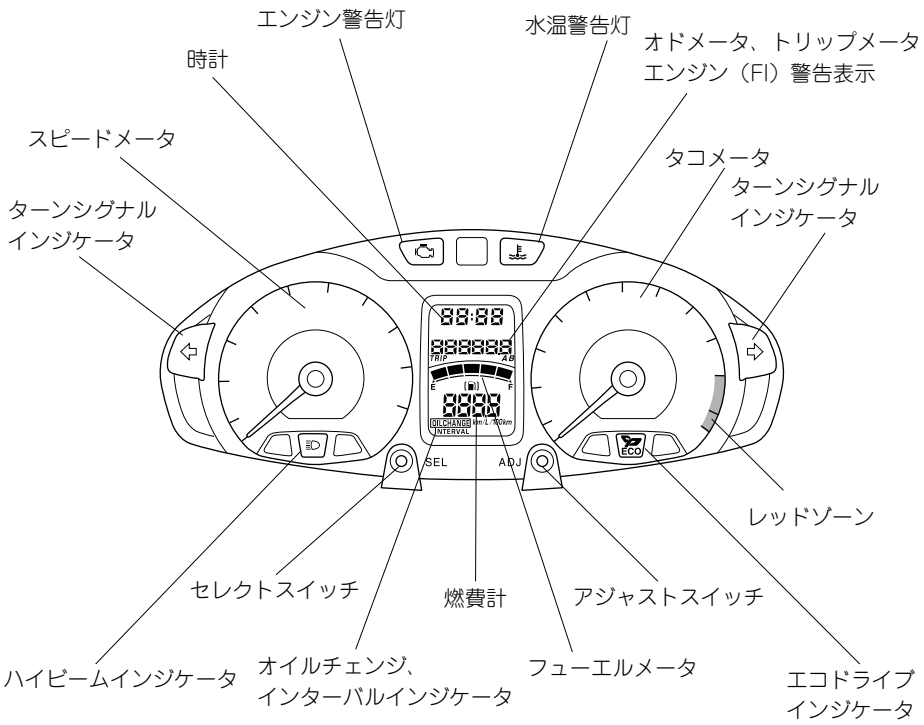
<オイルチェンジ>

エンジンオイルの交換時期をお知らせします。
初回は1,000kmで表示、以降は6,000kmごとに表示します。初回の1,000kmを過ぎると、6,000 ↔ 500kmの範囲で任意に設定することができます。



アドバイス
- OILCHANGE が点灯したらオイルを交換し、リセットしてください。これにより次回オイル交換時期を表示することができます。
- 点灯前にオイルを交換した場合にも次回のオイル交換時期を正しく表示させるためリセットしてください。ただし初回 1,000km 未満でのリセットはできません。

メータの見かた



リセットのしかた

1. メインスイッチを**OFF**にします。
2. セレクトスイッチを押したままメインスイッチを**ON**にし、そのままセレクトスイッチを約2秒以上押し続けます。OILCHANGEが 3 回点滅してから消え、リセットされます。このときのオドメータの数値が記憶され、6,000km（または設定値）走行後に再び表示します。

オイル交換時期の設定

1. メインスイッチを **ON** にし、メータをオドメータ表示とします。アジャストスイッチを約　2　秒以上押して“INTERVAL”と“OILCHANGE”インジケータを点滅させます。このときオドメータは、前回リセット時のオドメータの数字を3回点滅表示したあと、現在のインターバル設定値を点灯表示します。
2. セレクトスイッチを押すと 500km ずつ減り、アジャストスイッチを押すと500kmずつ増えます。

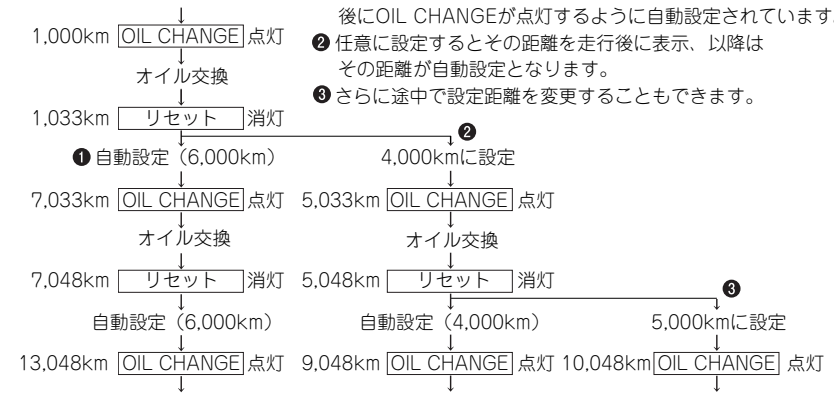
6,000 ⇄ 5,500 ⇄ 5,000 ····· 500

3. セレクトスイッチとアジャストスイッチを同時に約2秒以上押して設定完了です。

アドバイス

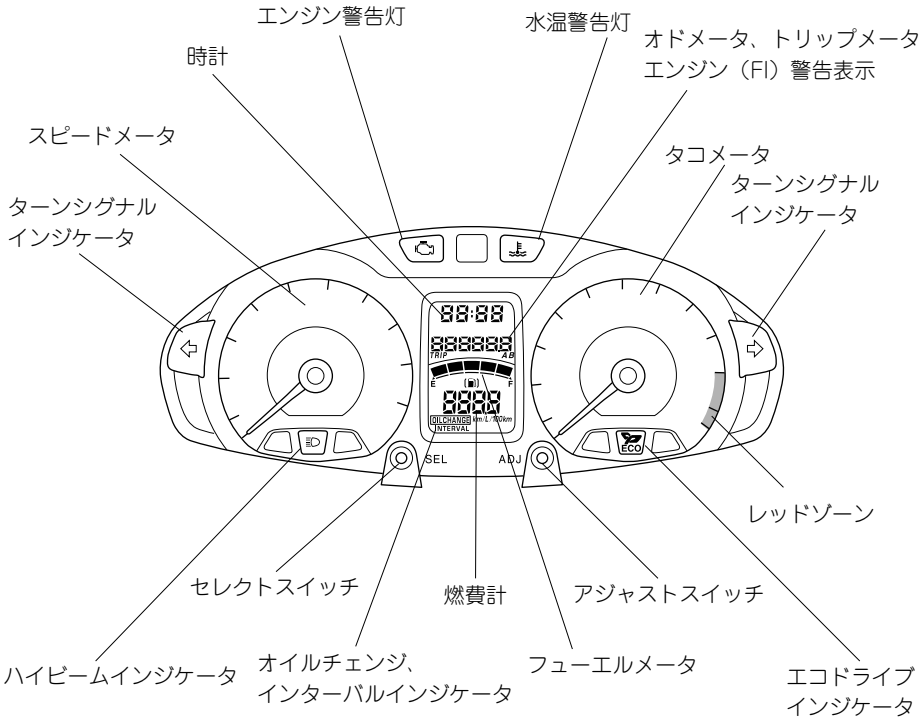
- **距離設定は、オドメータが1,000kmに達したあとに調整可能となります。**
- **オイルチェンジインジケータはオイル交換時期の目安を示すものです。メンテナンスノートに従って正しい時期にオイル交換をしてください。**
- **オイル交換のインターバルは、交換時期の設定をしてからではなく、リセットしてからの距離を示します。**

アドバイス



❶ 特に設定しない場合は、初回1,000kmのあとは6,000km走行後にOIL CHANGEが点灯するように自動設定されています。
❷ 任意に設定するとその距離を走行後に表示、以降はその距離が自動設定となります。
❸ さらに途中で設定距離を変更することもできます。

メータの見かた



<ターンシグナルインジケータ> ⇦⇨

ターンシグナルランプが作動すると点滅します。

<ハイビーム> ≡D

ヘッドランプが上向きのときに点灯します。

＜エコドライブ＞

環境への影響を減らす走行を促すためにエコドライブインジケータが付いています。メータ上にあるエコドライブインジケータライトは燃費のいい運転をしているときに点灯し、燃費をよくするための技術を学ぶ手助けになります。

システムがリアルタイムの燃料消費率を監視して、あらかじめ決められた燃料消費率以下になるとエコドライブインジケータライトが点灯します。

エコドライブインジケータは自動的に燃費を改善するものではありませんが、効率のよい運転を心掛けて燃費のよい運転をする手助けになります。燃費は多くの外部要因に左右されます。外部要因としては、走行距離や発進、停止回数があります。また、加速時のスロットルの開け方などの運転状況や整備状況なども燃費に対する重要な要因になります。さらに、燃費は、CVT減速比の変化やCVT装置のメカロスの影響も受けます。

■ 警告灯

＜水温警告灯＞

冷却水の温度が規定値を超えると点灯します。

▲注 意

- **水温警告灯が点灯したまま運転しないでください。エンジンが損傷するおそれがあります。**
- **水温警告灯が点灯したらエンジンをとめて、エンジンが冷えてからリザーバタンク内の冷却水量を点検してください。**
- **高温下での長時間にわたるアイドリングにより、水温警告灯が点灯する場合があります。**
  この場合は、走行してエンジンを冷やすか、冷えるまでエンジンを停止してください。

＜エンジン警告灯＞

- メインスイッチを **ON** にするとランプチェックのため約3秒間点灯します。
- 燃料噴射機構に異常が起きると、点灯または点滅します。

注 記

エンジン警告灯が点灯したら、すぐにスズキ販売店にご相談ください。

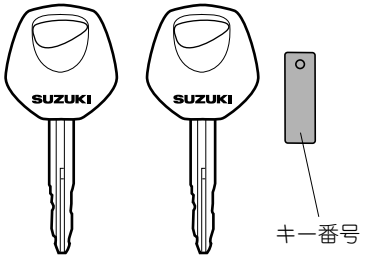
アドバイス

- **エンジン警告灯が点滅している場合は、始動ができません。**
- **エンジン警告灯が点灯していても走行できない場合もあります。**

スイッチの使いかた

■ キーの取扱い

この車にはキーが2個と英数字のキー番号を印したプレートがセットされています。

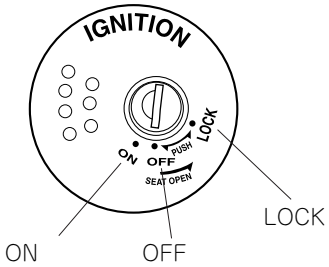


アドバイス

- **スペアキーは大切に保管してください。**
- **キーを 1 本紛失・破損した際は、キーショップなどでスペアキーをもとに新しいキーを作ってください。全てのキーを紛失・破損したときは、キーシリンダの交換などが必要になります。詳しくは、販売店にご相談ください。**

■ メインスイッチ

電気回路の**ON**-**OFF**をキーを回して行います。



ON

- エンジンの始動、走行ができます。
- 次のランプが点灯します。
  ［ヘッド、テール、メータ、ポジション、ライセンスランプ］
- スイッチ、ランプ類が使えます。
  ［ターンシグナル、ホーン、ハザード、スタータ、パッシング、ディマ］
- キーが抜けません。

OFF

- エンジンが停止します。
- ランプ類が使えません。
- キーが抜けます。

LOCK

- ハンドルがロックします。
- ランプ類が使えません。
- キーが抜けます。

SEAT OPEN

- シートロックが解除されます。

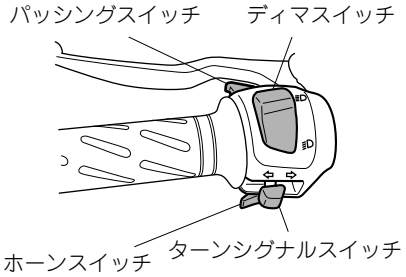
⚠警 告

- **走行中はキーを操作しないでください。思わぬ事故につながることがあります。キーは停車後、操作してください。**
- **衝突やスリップにより転倒した場合は、車両に想定できない異常が発生する可能性があります。車両の異常により火災が発生したり、リアホイールなどの回転する部品に巻き込まれる可能性があります。**
  転倒した場合は、すぐにメインスイッチをオフにして、全ての装置を停止させます。転倒した時に、見えない部分に損傷を受けている可能性があるので、スズキ販売店にて点検を受けてください。
- **金属製や大型、重いキーホルダは、運転の妨げになるおそれがあります。キーホルダは布製または革製で小さく軽いものを使用し、ハンドル操作を妨げないことを確認してください。**

アドバイス

- **メインスイッチONでヘッドランプなどが点灯するため、エンジンをかけずにONのままにしておくとバッテリあがりの原因となります。**
- **車から離れるときは、盗難抑止のためハンドルをロックし、必ずキーを抜いてお持ちください。**
- **キーはメインスイッチ、フューエルタンクキャップなどに共通して使います。**

それぞれのスイッチはメインスイッチが**ON**のとき作動します。



スイッチの使いかた

■ ターンシグナルスイッチ

右折または左折するときや進路変更などの合図に使います。

右折 ⇨

スイッチを⇨側に押すと、右側ターンシグナルランプが点滅します。スイッチを前に押してランプを消します。

左折 ⇦

スイッチを⇦側に押すと、左側ターンシグナルランプが点滅します。スイッチを前に押してランプを消します。

⚠警 告

ターンシグナルスイッチは自動的に解除されません。使用後は必ずスイッチを前に押して解除してください。点滅したままにしておくと周囲の誤判断を招き、事故を起こすおそれがあります。

アドバイス

ターンシグナルランプの電球（バルブ）に、正規ワット数以外のものを使用するとターンシグナルが正しく作動しません。必ず正規ワット数のものを使用してください。

■ ディマスイッチ

ヘッドランプの向きを切り換えます。

ハイビーム

スイッチを≡D側に押すと、ヘッドランプが上向きになります。

ロービーム

スイッチを≡D側に押すと、ヘッドランプが下向きになります。

注 記

- **ディマスイッチをハイビームとロービームの中間位置に止めると、ハイビームとロービームの両方が点灯することがあります。このような状態で走行すると、車両に損傷を与えるおそれがあります。**
- **ヘッドライトにはテープ類を貼らないでください。**
- **停車中に、点灯したヘッドランプやテールランプを物でさえぎったり、衣類などを被せないでください。ランプの熱により、レンズが溶けたり、置いた物が損傷することがあります。**

アドバイス

対向車や先行車があるときはロービームで走行してください。

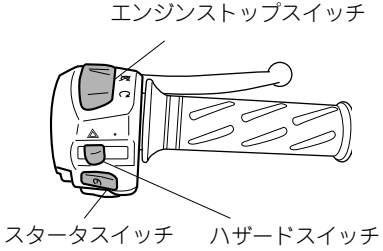
■ パッシングスイッチ

追い越しのときなどに、自車の存在を知らせます。ディマスイッチがロービームのときにスイッチを押すとヘッドランプのハイビームが点灯します。

■ ホーンスイッチ

スイッチを押すとホーン（警音器）が鳴ります。

それぞれのスイッチはメインスイッチが**ON**のとき作動します。



スイッチの使いかた

■ ハザードスイッチ

故障などの非常時に、停車するとき使用します。
スイッチを⚠側に押すと、すべてのターンシグナルランプが点滅します。通常は右側にしておきます。

アドバイス

非常時以外は、使用しないでください。エンジン停止状態での使用は、バッテリあがりの原因となります。

■ スタータスイッチ

ブレーキレバーを握り、スイッチを押すとスタータモータが回転し、エンジンが始動します。
この車は、スズキイージースタートシステムを装備しているため、スタータスイッチをワンプッシュするだけでエンジンを始動します。

注 記

スタータスイッチを5秒以上押し続けたり、スズキイージースタートシステムを連続で使用するなどしてスタータモータを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリあがりの原因となります。

アドバイス

エンジンストップスイッチが⊗のときやサイドスタンド時は作動しません。
詳細はP.34のアドバイスをご覧ください。

■ エンジンストップスイッチ

転倒などの非常時に、ただちにエンジンを停止させます。
スイッチを⊗側に押すと、エンジンが停止します。通常は、∩にしておきます。

⚠警 告

走行中にエンジンストップスイッチを∩→⊗→∩にしないでください。
エンジンが円滑に回転しなくなり、走行不安定の原因となります。またエンジンや触媒装置に悪影響を与えます。

アドバイス

エンジンストップスイッチでエンジンを停止したときは、必ずメインスイッチをOFF にしてください。ON のままにしておくとバッテリあがりの原因となります。

ハンドルロック

車から離れるときは、盗難抑止のためにハンドルロックをかけましょう。
チェーンロックなどの併用もおすすめします。

<かけかた>

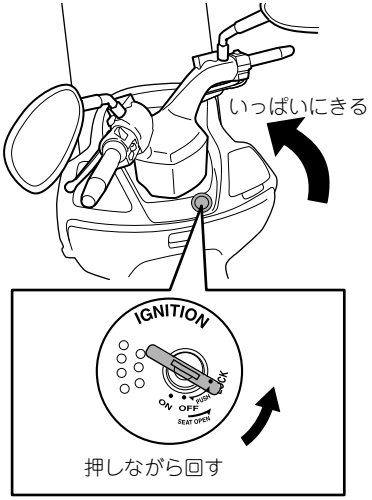
1. ハンドルを左へいっぱいにきります。
2. キーを押しながら、**OFF**から**LOCK**まで回します。
3. キーを抜きます。

アドバイス
- **ハンドルを左右に動かして、確実にロックされているか確認してください。**
- **ロックがかかりにくいときは、ハンドルを少し右に動かしながらキーを回してください。**

<外しかた>

キーを差し込み、押しながら、**OFF**まで回します。

アドバイス
走行前にハンドルを左右に動かして、切れ角が左右均等かを確認してください。



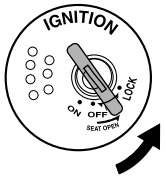
ハンドルロックのかけかた

シート

トランクの使用はシートを開けて行います。

1. メインスイッチにキーを差し込み、左に回してシートロックを解除します。
2. シートの後部を持ち上げ、シートを開けます。

- シート後部を軽く押し下げるとシートロックがかかります。



シートロックの外し方

シート

⚠注 意

シートはロックしたことを確認してください。シートロックがかからない状態で運転すると、走行に支障をきたすことがあります。またシートを開けたままにしておくと、バッテリあがりの原因となります。

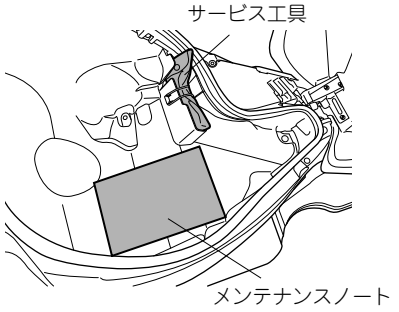
アドバイス

- **シートを軽く持ち上げ、ロックがかかったことを確認してください。**
- **シートの下にキーを置いたままロックすると、キーが取り出せなくなりますので注意してください。**
- **シートが開きにくい場合は、シートの後部を押しながらキーを回してください。**

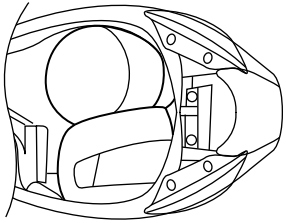
トランク

シートを開けるとトランクがあります。荷物の積載は3kgまでです。

- サービス工具は、袋に入れバンドで固定してください。
- メンテナンスノートは、ビニール袋に入れてトランク前側に保管してください。



ヘルメットは下図のように入れてください。



注 記

- **トランク内はエンジンの熱や直射日光などで温度が高くなります。熱の影響を受けやすいもの、食料品、可燃性のものは入れないでください。**
- **トランクに荷物を入れ過ぎると、シートを軽く押し下げてもシートロックがかからないことがあります。その時は、荷物を減らしてシートロックをかけてください。シートを強く押し下げてシートロックをかけると、ロック機構の破損の原因となります。**

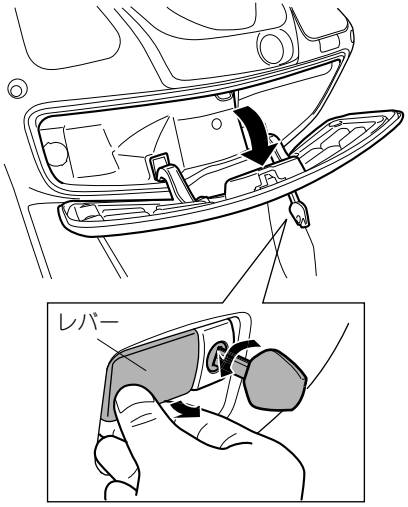
アドバイス

- **壊れやすいものは入れないでください。**
- **車から離れるときは貴重品を入れたままにしないでください。**
- **雨や洗車時などトランク内に水が入ることがあります。大切なものを入れる場合は、ご注意ください。**
- **ヘルメットは、その形状や大きさにより、トランクに入らない場合があります。**

フロントボックス

小物などを収納するボックスを装備しています。荷物の積載量は1.5kgまでです。

1. キーを差し込み、左に回してロックを解除します。
2. レバーを引いてリッドを開けます。
3. リッドを閉じ、キーを右に回してロックします。
4. キーを抜きます。
5. レバーを引いて、リッドがロックされていることを確認します。



▲警 告

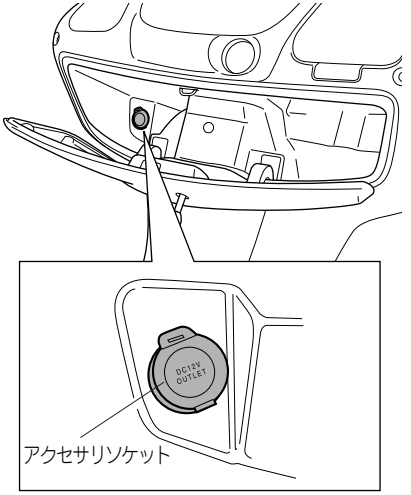
フロントボックスをロックしていない状態で走行するとフロントボックスが開き走行に支障をきたすおそれがあります。走行前にレバーを引いて、確実にロックされているか確認し、走行中は、開閉操作をしないでください。

アドバイス

完全防水構造ではありません。雨や洗車時などボックス内に水が入ることがあります。大切なものを入れる場合は、ご注意ください。

＜アクセサリソケット＞

フロントボックス内にアクセサリソケットがあります。定格12V36Wまで使用できます。



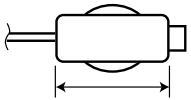
フロントボックス

注 記

- アクセサリソケットは、携帯電話の充電専用です。他のアクセサリの接続は、車の電気回路やアクセサリに損傷を与えるおそれがあります。
- アイドリングやエンジン停止中にアクセサリソケットを使用すると、バッテリあがりの原因になります。

アドバイス

- 使わないときは、異物の侵入を防ぐためカバーを閉めてください。
- シガーライタは使用しないでください。
- 差し込みプラグが長い場合、リッドは閉じないでください。

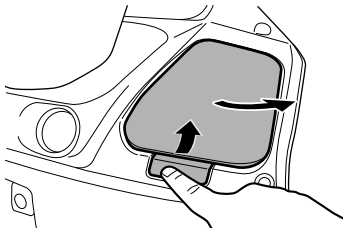


- 定格値(12V36W)　は一時的な容量です。バッテリあがりを防ぐため長時間の使用は避け、不要なときはアクセサリの電源を切ってください。

ミニボックス

フロントボックスの右側にミニボックスがあります。荷物の積載は0.5kgまでです。

1. ボタンを押してリッドを開けます。
2. リッドを外側に回します。



注 記

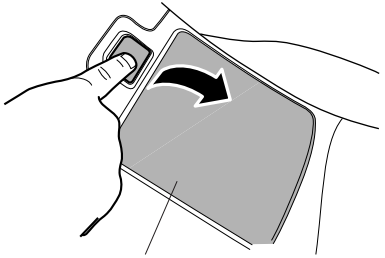
リッドや収納物の破損の原因になるため、リッドは無理に閉じないでください。

アドバイス

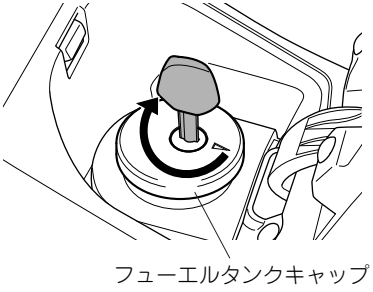
- 完全防水構造ではありません。雨や洗車時などボックス内に水が入ることがあります。大切なものを入れる場合は、ご注意ください。
- ミニボックスにはキーロックがありません。貴重品などは入れないでください。

ガソリンの給油

1. ボタンを押して、フューエルリッドを開けます。



2. フューエルタンクキャップにキーを差し込み、右に回して外します。

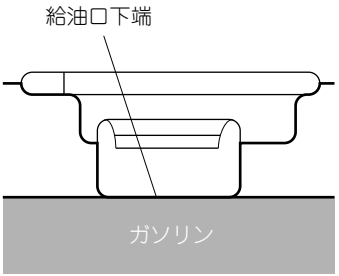


アドバイス

走行中、給油口付近より“ピー”という音がする場合があります。これはフューエルタンクの内圧調整バルブの作動音で、異常ではありません。

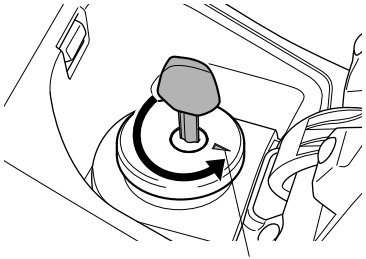
3. ガソリンを給油口の下端まで入れます。

指定燃料：無鉛レギュラーガソリン
タンク容量：10L



ガソリンの給油

4. キャップの△マークを下図の位置に合わせて押し込み、キーを左に回して抜きます。



△マーク

5. フューエルリッドを閉じます。

⚠警 告

ガソリンは引火性が高く取扱いを誤ると火災を起こすおそれがあります。

- **ガソリンを給油するときは、エンジンをとめて火気を近づけないでください。**
- **給油は、必ず屋外で行ってください。**
- **フューエルタンクキャップを開ける前に車体や給油機などの金属部分に触れて身体の静電気を除去してください。静電気を帯びていると、放電の火花でガソリンに引火するおそれがあります。**
- **給油操作は、一人で行い他の人を近づけないでください。**
- **ガソリンは給油口下端より上に入れないでください。キャップからガソリンがにじみ出ることがあります。**
- **給油後、フューエルタンクキャップを確実に閉めてください。**
- **こぼれたガソリンは、布などで完全にふき取ってください。**

注 記

- **必ず無鉛ガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、その他アルコール系の燃料、軽油など、また不適切な添加剤は、エンジン、触媒装置、燃料系統を損傷する原因となります。**
- **給油時など、フューエルタンクに砂ぼこりや水などの異物が混入しないように注意してください。フューエルポンプの詰まりの原因となるおそれがあります。**
- **フューエルタンク内のガソリンを使い切る(ガス欠) と触媒装置などの損傷の原因になります。ガソリンの残量に注意してください。**

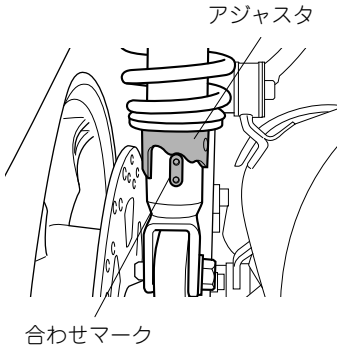
アドバイス

加速不良やエンジン出力が出ないなどのエンジンの不調が起きるときは、使用しているガソリンが原因の場合があります。その時は、給油するガソリンスタンドを変えてみてください。ガソリンスタンドを変えても症状が改善しないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

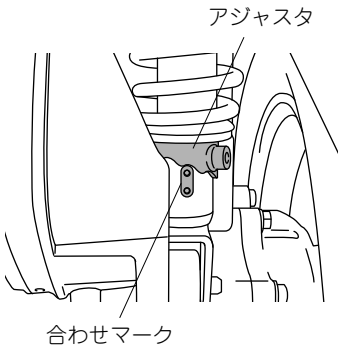
リヤショックアブソーバ

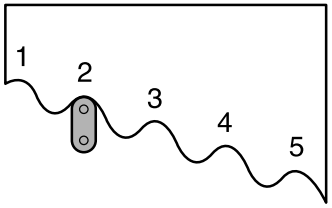
スプリングの強さの調整ができます。
アジャスタを回します。

<右側>



<左側>





1名乗車時	1	標準2	3	4	5
2名乗車時	1	2	標準3	4	5
	← やわらかい　かたい →				

⚠注 意

やけどを避けるため、アジャスタの調整はマフラが冷えているときに行ってください。

注 記

- **左右同じ位置に調整してください。**
- **二人乗りをするときは、スプリングの強さを3以上に調整してください。**

正しい運転操作

エンジンのかけかた

- ガソリン、オイル量を確認します。
- サイドスタンドを外し、メインスタンドを立ててください。
- 車の左側に立ってください。

⚠警 告

● 排気ガスには一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中など、風通しの悪い場所では、エンジンをかけないでください。排気ガスにより、ガス中毒を起こすおそれがあります。

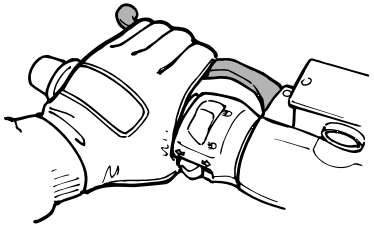
⚠注 意

メインスタンドを立てるときは、必ずサイドスタンドを外しておいてください。

アドバイス

- **サイドスタンド外し忘れ防止装置により、サイドスタンドが出ているときはエンジンがかかりません。またサイドスタンドを出すとエンジンは停止します。**
- **サイドスタンドがスムーズに作動しないときは、注油してください。**

1. エンジンストップスイッチが ⟳ になっていることを確認します。
2. 左手でリヤブレーキレバーを握ります。



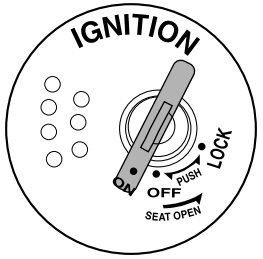
⚠警 告

飛び出し防止のため、エンジンをかけるときは必ずリヤブレーキレバーを握ってください。

アドバイス

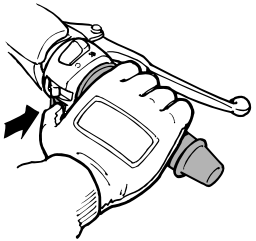
ブレーキをかけた状態でないと、エンジンはかかりません。

3. スロットルグリップを操作し、全閉から全開まで滑らかに操作でき、手を放すと滑らかに全閉に戻ることを確認します。
4. メインスイッチを**ON**にします。



5. エンジン警告灯の消灯を確認します。

6. スロットルグリップは回さずに、スタータスイッチを押します。
この車は、スズキイージースタートシステムを装備しているため、スタータスイッチをワンプッシュするだけでエンジンを始動します。

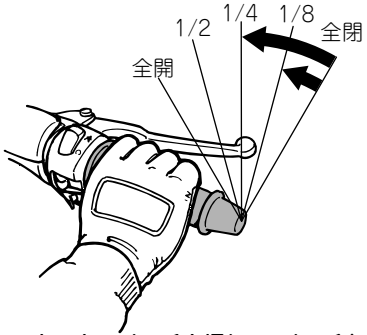


注記

- エンジンがかかったらスタータスイッチ、スロットルグリップを戻してください。エンジンがかかった状態でスタータスイッチを押したままにすると、故障の原因となります。
- スタータスイッチを 5 秒以上押し続けたり、スズキイージースタートシステムを連続で使用するなどしてスタータモータを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリあがりの原因となります。エンジンがかからなかったときは、バッテリ電圧を回復させるため、メインスイッチを一旦OFFにして、10秒くらい休んでください

アドバイス

- 2～3回スタータスイッチを押してもエンジンがかからないときは、スロットルグリップを1/8～1/4ほど回し、スタータスイッチを押します。



- スタータスイッチを押し、スイッチから手を放しても数秒間スタータモータが回り続けます。数秒が経過するか、エンジンが掛かるとスタータモータは止まります。

エンジンのかけかた

アドバイス

- **転倒した場合は、自動的にエンジンが停止するシステムが作動し、同時にエンジン警告灯が点灯します。エンジンを再始動するには、車両を起こしたあと、メインスイッチを一旦OFFにして、再びONにしてください。エンジン警告灯が消灯すると、エンジンの再始動が可能になります。エンジン警告灯が点灯したままスタータスイッチを押し続けないでください。バッテリ上がりの原因となります。**
- **長期間エンジンをかけなかったときや、ガス欠しガソリンを給油したときは、エンジンがかかりにくいことがあります。このようなときはスロットルグリップを回さないでスタータスイッチを通常より多く使ってください。**
- **スタータスイッチを押している間は、ヘッドランプが消灯します。**
- **不必要な空吹かしはしないでください。ガソリンの無駄使いになるばかりでなくエンジンや触媒装置に悪影響を与えます。**

〈暖機運転は適切に〉

次のような場合は、数十秒から数分程度の暖機運転を行ってから、走行を開始してください。

- 長期間お車を使用しなかったとき
- 寒冷地などで極低温（－ 10 ℃以下を目安）にあるとき

上記以外の場合はエコ運転のため、エンジンを始動したらすみやかに走行を開始してください。

注 記

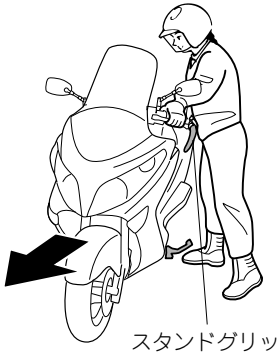
エンジン始動直後は暖まっていないので、空ぶかしや急発進、急加速をすると、エンジン故障の原因となります。

注 記

長時間のアイドリングはしないでください。バッテリあがりやオーバーヒートなどの不具合の原因となります。

発進のしかた

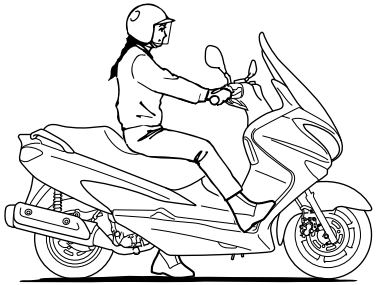
1. メインスタンドを外します。
左手でリヤブレーキレバーを握り、右手でスタンドグリップを持ち、ゆっくり車を押してメインスタンドを外します。メインスタンドを外した後に、メインスタンドが完全に納まっているかを確認します。



アドバイス

メインスタンドを立てたり、外したりするときは必ずスタンドグリップを持ってください。シートは持たないでください。

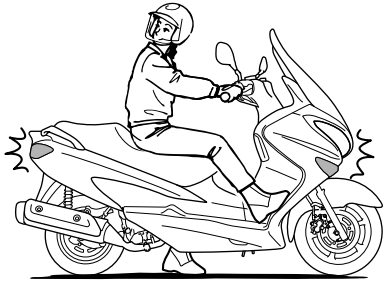
2. 乗車します。
両手でハンドルを握り、車の左側から乗車しシートに腰をおろします。左足は地面につけて倒れないようにします。
走り出すまではむやみにエンジン回転を上げないでください。



⚠警 告

飛び出し防止のため、リヤブレーキレバーは発進するまでしっかりと握っていてください。

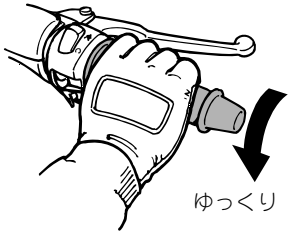
3. 安全を確認します。
発進の合図（右側ターンシグナルランプの点滅）をし、前後の安全を確認します。



アドバイス

- **近くに人がいる場合、交通量の多い道路、夜間などでの発進には十分注意してください。**
- **後方の車には特に注意しましょう。**

4. 発進します。
リヤブレーキレバーを放して、スロットルグリップをゆっくり手前に回すと車は走り出します。
発進したらすみやかにターンシグナルランプを消灯してください。



⚠警 告

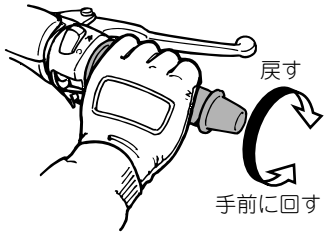
スロットルグリップを急激に回すと、急発進して事故を起こすおそれがあります。

発進のしかた

スロットルグリップでスピードを調整します。

手前に回す
- スピードが速くなります。
- ゆっくり回しましょう。

戻す
- スピードが遅くなります。
- すばやく戻しましょう。



⚠警 告

走行中サイドスタンドを操作しないでください。エンジンが停止し、思わぬ事故の原因となります。

アドバイス
- **むやみにエンジンの回転を上げないでください。エンジン寿命に悪影響を与えます。**
- **スピードは控えめにしましょう。**
- **走行中に異常を感じたら、すぐにスズキ販売店で点検を受けてください。**

「感情的な走りはいけません
心のブレーキを忘れずに！」

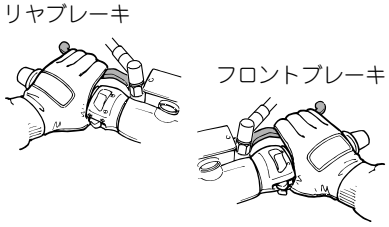
<ならし運転>

ならし運転を行うと、お車の寿命を延ばします。

- 最初の 1,000km を走行するまでは、スロットル開度1/2以下で走行してください。
- 新しいタイヤはスリップしやすいので、車を深く倒さないでください。倒す角度は徐々に大きくしてタイヤをならしてください。
- 不必要な空ふかしや急加速、急減速、急ハンドル、急ブレーキは避けてください。

ブレーキの使いかた

ブレーキは前後同時に使い、エンジンブレーキを併用します。



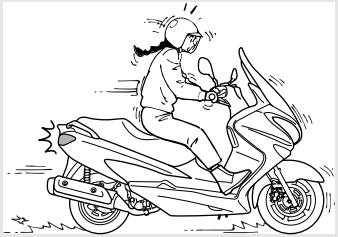
- スロットルグリップをすばやく戻してから、ブレーキレバーを握りましょう。
- 徐々にブレーキをかけスピードを落としていくのが上手なかけかたです。

<エンジンブレーキ>

スロットルグリップを戻すことによってエンジンブレーキが働きます。

⚠警 告

- **フロントブレーキまたはリヤブレーキのみ使うと、車が横すべりして転倒するおそれがあります。**
- **濡れた路面や雪道、凍った路面は、乾いた路面より制動距離が長くなります。早めにブレーキをかけてください。**
- **長い下り坂などでは、ブレーキをかけ続けると、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。下り坂にさしかかる前に、十分減速してください。**
- **不必要な急ブレーキは避けましょう。急ブレーキは横すべりや転倒の原因となります。**



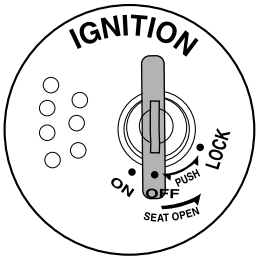
アドバイス

- **濡れた路面ではスリップしやすいので急激なブレーキは避け、スピードを落として余裕をもったブレーキ操作をしましょう。**
- **洗車後や水たまりを走行した後は、ブレーキのききが悪くなる場合があります。ききが悪い場合は、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、ききが回復するまでブレーキを軽く作動させてください。**

止まりかた

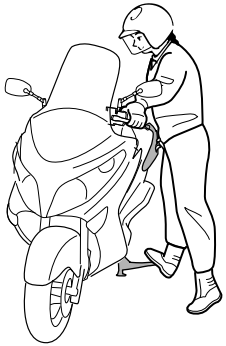
1. 合図を出します。
- 早めにターンシグナルランプを点滅させ他の車に注意しながら、徐々に左に寄ります。
- スロットルグリップを戻して前後ブレーキをかけます。ストップランプが点灯し後車への合図にもなります。

2. メインスイッチを**OFF**にします。
車が完全に止まったら、ターンシグナルランプを消し、キーを**OFF**にします。



3. スタンドを立てます。
交通の邪魔にならない平らな場所でメインスタンドを立てます。

- 左手でハンドルをまっすぐにし、右手はスタンドグリップを持ちます。
- メインスタンドの足かけに右足をかけて体重をのせ、スタンドグリップを引き上げます。



⚠注 意

メインスタンドを立てるときは、必ずサイドスタンドを外しておいてください。

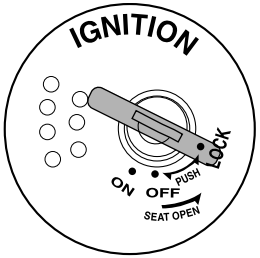
注 記

上り坂などで、アクセル操作でバランスを取るなどして車を停止させようとしないでください。クラッチが過熱し、故障の原因となります。

アドバイス

やわらかい路面や坂道などでは車が倒れないよう注意してください。

4. ハンドルロックをします。
車から離れるときは、盗難抑止のためハンドルロックをかけてください。
☞27ページの「ハンドルロック」参照



▲注 意

エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、ブレーキ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。他の人がマフラ、ブレーキ、エンジンなどに触れることのない場所に駐車してください。

アドバイス

盗難抑止のため、必要に応じてU字ロック等の盗難抑止ロックをしてください。盗難抑止ロックは車両を動かす前に、必ず外してください。

日常点検、定期点検

お車を快適に使用し、事故を未然に防ぐため、道路運送車両法で日常点検と定期点検を行うことが義務づけられています。必ず実施してください。

＜日常点検＞

日常の車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検です。
この車に適用される日常点検の項目は次ページをご覧ください。

＜定期点検＞

車を使用する人自身の責任において定期的に行う点検整備です。

⚠警 告

日常点検や定期点検を怠ると、事故や故障の原因となることがあります。

アドバイス

- **お車を使用しないときも定期点検は実施してください。**
- **お車を長期間休ませた後に使い始めるときは入念に点検することが大切です。**

- 定期点検結果は、別冊「メンテナンスノート」に記録する必要があります。ご自身で点検できない項目については、スズキ販売店で点検を受けて記録してください。
- 点検時期や点検内容などについて、詳しくは別冊「メンテナンスノート」の“日常点検の方法”“定期点検の解説”をご覧ください。
- 初期（1か月）点検はお買いあげいただいたスズキ販売店が無料で実施します。ただし他店では有料となります。また油脂代、部品代およびその交換工賃は有料です。

⚠警 告

点検は、安全に十分注意してください。

- **平坦な足場のしっかりした場所で、メインスタンドを立ててください。**
- **エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、ブレーキ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。**
- **排気ガスには一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はやめてください。**
- **点検、整備を行うときは火気厳禁です。**
- **走行して点検する場合は、周囲の交通事情に十分注意してください。**
- **異常が認められたときは、ご自身またはスズキ販売店で確実に整備してからお乗りください。**

日常点検項目

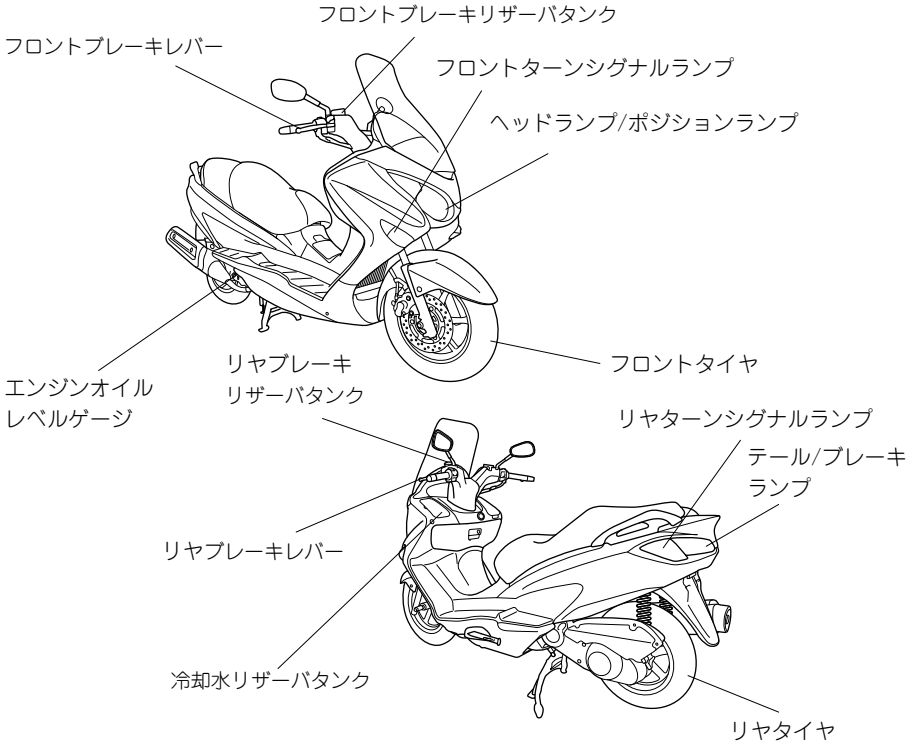
ブレーキ
- ブレーキレバーの遊び
- きき具合
- ブレーキ液の量

タイヤ
- 空気圧
- 亀裂、損傷、異物、異常摩耗
- 溝の深さ

エンジン
- エンジンオイルの量
- 冷却水の量
- かかり具合、異音
- 低速、加速の状態

灯火装置、方向指示器（ランプ類）
運行において異常が認められた箇所

＜日常点検・部品配置＞



簡単な整備

ここでは、通常行われることが多い簡単な点検、整備の方法を説明しています。

⚠警 告

- **整備は、安全のためご自身の知識・技量の範囲で行ってください。難しいことはスズキ販売店にご相談ください。**
- **平坦な足場のしっかりした場所で、メインスタンドを立ててください。**
- **エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、ブレーキ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。**
- **点検、整備を行うときは火気厳禁です。**

注 記

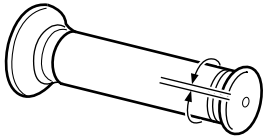
- **整備はエンジンを停止し、キーを抜いた状態で行ってください。**
- **適切な工具を使用しましょう。**
- **スイッチにグリスを塗ったり、油を注したりしないでください。故障の原因となります。**

アドバイス

油脂類の廃液は、法令で適切な処理を行うことが義務づけられています。廃液の処理はスズキ販売店にご相談ください。

スロットルケーブル

■ スロットルケーブルの点検

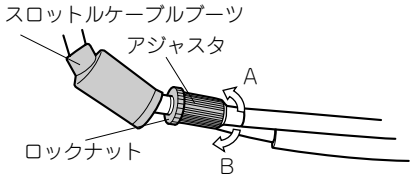


2～4mm

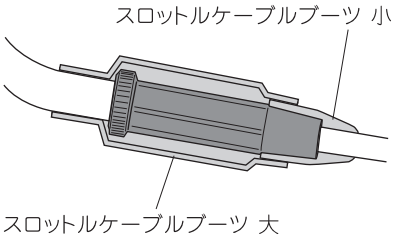
メインスイッチを**OFF**にした状態で、スロットルグリップを操作し、スムーズに操作できるか、ハンドルを左右いっぱいに切った状態でも操作が重くないか、傷や損傷が無いか点検します。また、スロットルケーブルの遊びの量が、2～4ｍｍの範囲内にあるかを確認します。遊びの量が範囲から外れている場合は、調整してください。

■ スロットルケーブルの遊びの調整

1. アジャスタにより遊びを調整します。スロットルケーブルブーツをずらし、ロックナットをゆるめます。アジャスタをAのように回すと遊びが多く、Bのように回すと遊びが少なくなります。



2. 調整後は、スロットルケーブルブーツ小を奥までしっかりと差し込んだ状態で、スロットルケーブルブーツ大の先端をかぶせます。

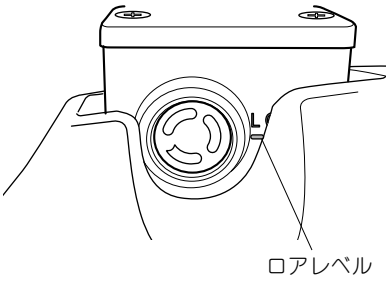


ブレーキ

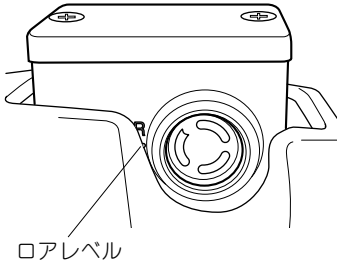
■ ブレーキ液の量の点検

平坦地で車体を垂直にし、ハンドルを直進状態にして、リザーバタンクの液面がロアレベルより上にあるかを点検します。
液面がロアレベル以下の場合はブレーキパッドの摩耗点検を行ってください。

<フロントブレーキ>



<リヤブレーキ>



⚠警 告

ブレーキ液は安全のため2年毎に交換してください。
指定ブレーキ液：
スズキブレーキフルードDOT4
（JIS BF-4）

ブレーキ

⚠警 告

- **ブレーキ液の減りが著しいときはブレーキ系統の液漏れが考えられます。スズキ販売店で点検を受けてください。**
- **ブレーキ液を取り扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んでください。**

⚠注 意

- **化学変化を防止するため、銘柄の異なるブレーキ液を使用しないでください。**
- **リザーバタンク内にゴミや水などが混入しないよう注意してください。**
- **ブレーキ液の入れ過ぎに注意してください。あふれ出るおそれがあります。**

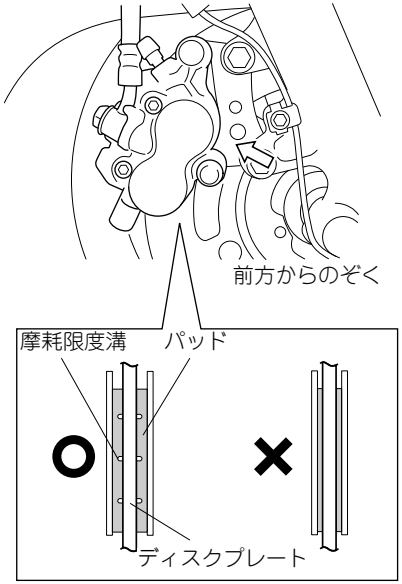
アドバイス

- **ブレーキ液は塗装面やプラスチックおよびゴム類を損傷させます。付着したら、すぐにふき取ってください。**
- **ブレーキ液面はブレーキパッドの摩耗と共に、下がっていきます。**

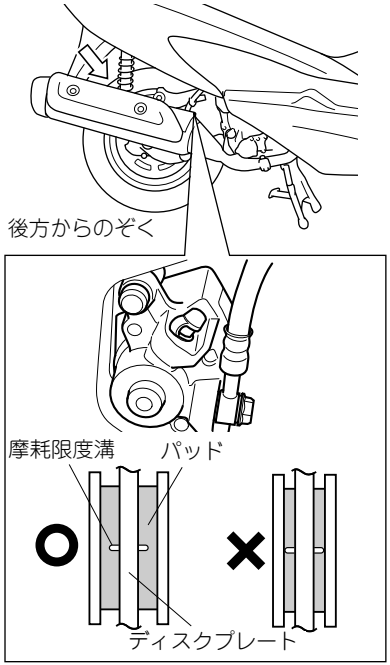
■ ブレーキパッドの摩耗の点検

ブレーキキャリパをのぞいて、パッドの摩耗を点検します。
摩耗限度溝がディスクプレートまで達したら、パッドを交換してください。

<フロントブレーキ>



<リヤブレーキ>



▲警 告

ブレーキパッド交換後、ブレーキレバーを、正規のタッチになるまで、数回ストロークしてください。

アドバイス

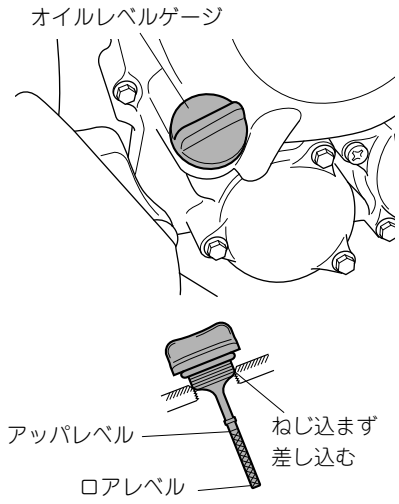
- **ブレーキパッドは左右同時に交換してください。**
- **新しいブレーキパッドは、きき具合が違います。慎重な運転を心がけてください。**
- **ブレーキパッドの交換は、スズキ販売店にご相談ください。**

エンジンオイル

■ エンジンオイル量の点検

1. 平坦地でエンジンを2～3分間アイドリング運転し、エンジンを停止します。
2. 2～3分後、オイルレベルゲージを外し、付着したオイルを布などでふきます。
3. オイルレベルゲージをねじ込まず差し込みます。
4. オイルがオイルレベルゲージのアッパレベルとロアレベルの間にあるかを点検します。オイル量がアッパレベル以上またはロアレベル以下の場合は、アッパレベルとロアレベルの間になるよう調整してください。
   - オイル量がロアレベル以下の場合は、オイルを補給してください。
   - オイル量がアッパレベル以上の場合は、オイルを抜くなどして調整してください。オイルを抜く方法については、スズキ販売店にご相談ください。

エンジンオイル



⚠注 意

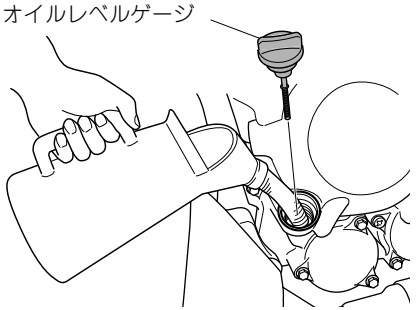
エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、ブレーキ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。

注 記

エンジンオイルの点検、補給は、前後輪が接地した状態で行なってください。メインスタンド状態では、正しいオイル量が測定できません。

■ エンジンオイルの補給

1. 平坦地でエンジンを2～3分間アイドリング運転し、エンジンを停止します。
2. 2～3分後、オイルレベルゲージを外します。
3. アッパレベルとロアレベルの間に油面がくるように補給します。
4. オイルレベルゲージを確実に取り付けます。



推奨オイル：
スズキ純正オイル

規格 / オイル	SAE	API
エクスター R9000 MA2	10W-40	
エクスター R7000 MA2	10W-40	
エクスター R5000 MA2	10W-40	
エクスター R5000 MB スクータ	10W-40	
エクスターオイル スーパーデラックス	10W-40	SE

推奨オイルが入手できない場合は、次の規格を満足するエンジンオイルを使用してください。

SAE	API	JASO
10W-40	SG, SH, SJ, SL, SM, SN	MB

エンジンオイル交換時期：
初回1か月または1,000km
以降6,000kmまたは1年ごと
オイルフィルタ交換時期：
初回1か月または1,000km
以降18,000kmごと

⚠警 告

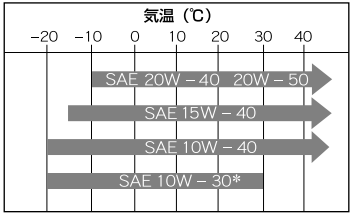
エンジンオイルを取り扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んでください。

注 記

- **銘柄やグレードの違うオイルを混用したり、低品質オイルを使用しないでください。変質して故障の原因となることがあります。**
- **作業前に オイルジョッキの内部等にほこりや泥、異物等が付着していないことを確認し、オイル注入口からゴミなどが入らないようにしてください。**

アドバイス

- **SAE10W-40 のオイルが入手できない場合は、次の表を参考に使用環境に合うオイルを選んでください。**



＊APIがSG,SH,SJ,SLのもの

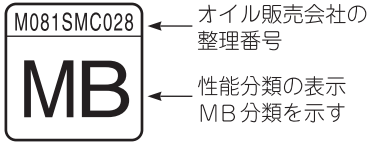
- **オイルをこぼしたときは、完全にふきとってください。**
- **オイルは規定量より多くても少なくても、エンジンに悪影響を与えます。**

エンジンオイル

アドバイス

JASO規格について

- **JASO T903 は、4 サイクル二輪車のエンジンオイルを選ぶ際の指針となる規格です。**
- **二輪車は四輪車と異なりエンジンオイルがクラッチやトランスミッションも潤滑しています。JASO T903 はこれらクラッチやトランスミッションが要求するオイル性能について規定しています。**
- **MA と MB の分類があり、本規格に適合するエンジンオイルの容器には、次の表示があります。**

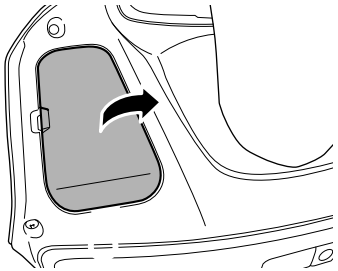


JASO T903:2016 適合品
本MB性能の品質保証者
スズキ株式会社

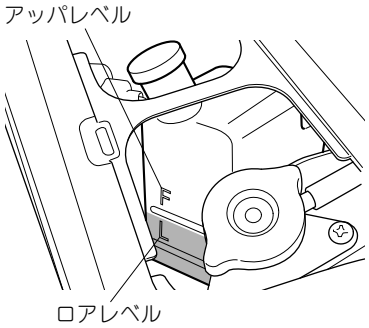
冷却水

■ 冷却水の量の点検

1. メンテナンスリッドを外します。



2. 平坦地で車体を垂直にして、冷却水がリザーバタンクのF(アッパレベル)とL(ロアレベル)の間にあるかを点検します。冷却水がL(ロアレベル)に近い場合は、F(アッパレベル)まで補給します。



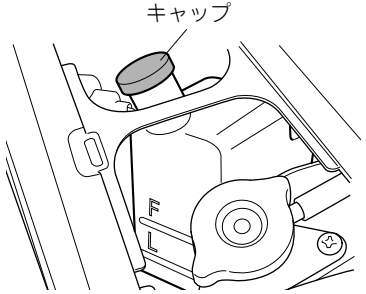
アドバイス

冷却水の量の点検は、エンジンが冷えているときに行います。

■ 冷却水の補給

1. メンテナンスリッドを外します。
2. リザーバタンクキャップを外します。
3. アッパレベルまで冷却水を補給します。

指定液： スズキスーパーロングライフクーラントまたはスズキクーラント



⚠警 告

冷却水は、人体に有害です。冷却水を取り扱うときは、十分注意してください。

- 冷却水を補給するときは、換気のよい場所で行ってください。
- 飲んだ場合は、無理に吐かずに、すみやかに医師の診察を受けてください。
- 目に入った場合は、きれいな流水で十分に洗ったあと、医師の診察を受けてください。
- 皮膚や衣服に付いた場合は、水と石鹸を使って洗い落としてください。

⚠警 告

- クーラントを取り扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んでください。
- 冷却水の補給はリザーバタンクのキャップから行い、ラジエータキャップは外さないでください。エンジンが熱いときラジエータキャップを外すと、冷却水が噴き出し、やけどを負うおそれがあります。

アドバイス

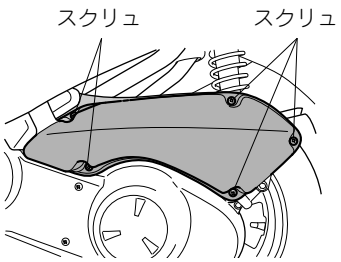
- 冷却水の減りが著しいときはラジエータ本体、ホースなどからの漏れが考えられます。スズキ販売店で点検を受けてください。
- リザーバタンクが空の場合は、ラジエータ内の冷却水も不足している可能性があります。
- 補給する水は水道水を使用し、井戸水や天然水は使用しないでください。
- 冷却水の交換はスズキ販売店にご相談ください。
- 冷却水交換時はスズキクーラントと水道水を1：1で混合したものを使用してください。
- スズキスーパーロングライフクーラントは、水で希釈する必要はありません。

エアクリーナ

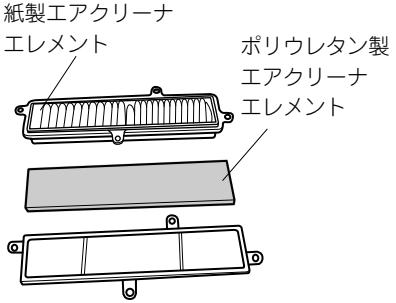
■ エアクリーナエレメントの点検

1年毎に点検してください。
ほこりが多い場所を走行する機会が多い場合は、６か月毎に点検してください。

1. スクリュを外し、エアクリーナキャップを取り外します。



2. エアクリーナエレメントを取り出し、目視により点検します。ポリウレタン製のエアクリーナエレメントに汚れや詰まりがある場合は清掃し、紙製のエアクリーナエレメントに汚れや詰まりがある場合は交換してください。

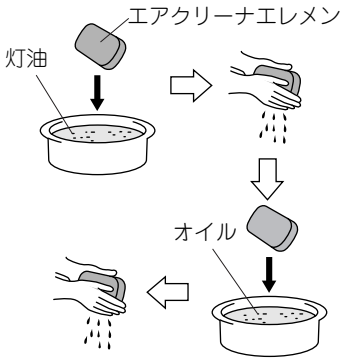


注 記

- **エアクリーナエレメントに劣化や損傷がある場合は交換してください。**
- **エアクリーナエレメントおよびエアクリーナキャップの取り付けが不完全な場合、ゴミやほこりを吸入しエンジンに悪影響を与えます。**
- **洗車時、エアクリーナエレメントに水がかからないようにしてください。また、エアクリーナボックス内に水が入らないようにしてください。**

■ ポリウレタン製エアクリーナエレメントの清掃

1. きれいな灯油で洗い、しぼってから乾燥させます。
2. きれいなオイルに浸し、しぼってオイルを浸透させます。
   推奨オイル：
   スズキエクスターオイルスーパーデラックス



3. エアクリーナエレメントを取り付けます。

▲注 意

ガソリンや引火点の低い洗浄剤は、非常に燃えやすいため、エアクリーナエレメントの清掃には使用しないでください。

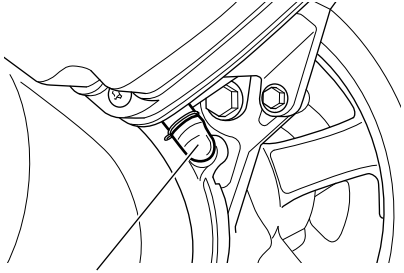
アドバイス

エアクリーナエレメントをしぼるときは、ねじらないで両手で押さえるようにしてください。

■ エアクリーナドレンチューブの清掃

1年毎に、エアクリーナドレンチューブに、水やオイルがたまっていないか点検してください。汚れや水がたまっている場合は、エアクリーナドレンチューブを清掃します。

1. エアクリーナドレンチューブの下に、受け皿を用意します。
2. エアクリーナドレンチューブをはずし、エアクリーナドレンチューブにたまっている汚れや水を取り除きます。
3. エアクリーナドレンチューブを確実に取り付けます。

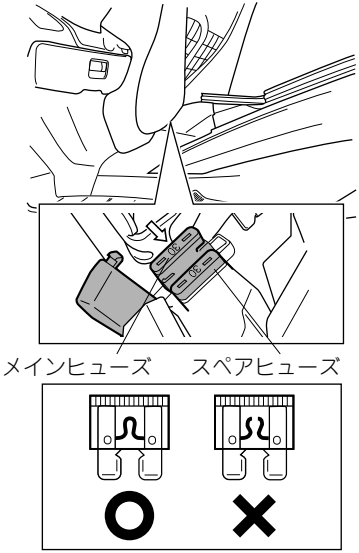


ヒューズ

■ ヒューズの点検

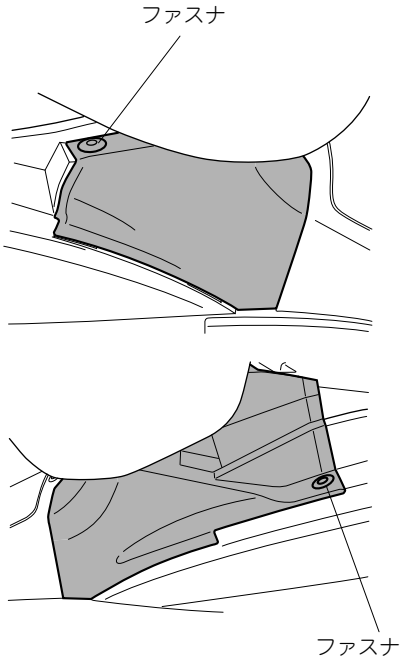
<メインヒューズ>

1. メインスイッチを**OFF**にします。
2. シートを開けます。
3. ヒューズボックスを開け、ヒューズを引き出して点検します。
4. 切れている場合は原因を調べ、直してから指定アンペアのスペアヒューズと交換します。原因がわからないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

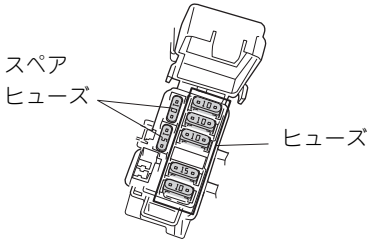


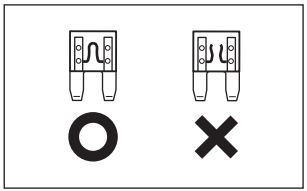
<ヒューズ>

1. メインスイッチを**OFF**にします。
2. シートを開けます。
3. 左右のファスナを外し、メンテナンスリッドを取り外します。



4. ヒューズボックスを開け、ヒューズを引き出して点検します。
5. 切れている場合は原因を調べ、直してから指定アンペアのスペアヒューズと交換します。原因がわからないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。





▲警 告

指定容量を超えるヒューズは、配線の過熱、焼損の原因となるので使用しないでください。針金、銀紙などを使用すると、配線が焼損したり火災が発生したりする原因となります。

注 記

- **電装品類（ランプ、計器など）を取り付ける時はスズキ純正用品をご使用ください。それ以外の物を使用するとヒューズが切れたり、バッテリあがりを起こすことがあります。**
- **洗車時、ヒューズボックスのまわりに水を強く吹きつけることは避けてください。**

アドバイス

ヒューズが切れたときは原因を調べ、直してから指定アンペアのスペアヒューズと交換します。原因がわからないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

バッテリ

■ バッテリの点検

この車は密閉式のメンテナンスフリーバッテリを使用しています。バッテリ液の点検、補給は必要ありません。
ターミナル部に汚れや腐食がある場合は、取り外して清掃してください。

▲警 告

- **バッテリを取り扱う前に、バッテリに貼付されている注意文をよく読んでください。**
- **バッテリには、希硫酸が含まれています。希硫酸が身体に付着すると重い火傷を負うおそれがあります。**
- **バッテリは引火性ガスを発生します。火気を近づけないでください。**
- **バッテリは、子供の手の届くところに置かないでください。**
- **乾いた布でバッテリをふかないでください。静電気が発生して引火するおそれがあります。**

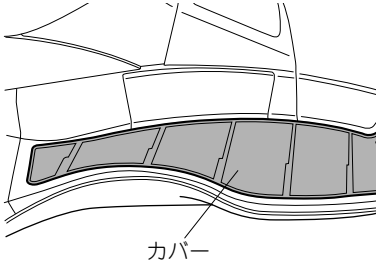
バッテリ

<バッテリ液が付着した場合は・・・>

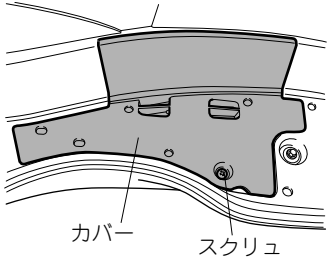
- 目に入った場合は、すぐに多量の水で15分以上洗い医師の診察を受けてください。
- 皮膚や衣服に付いた場合は、衣服を脱ぎ多量の水で洗い流してください。
- 万一飲み込んだ場合は、すぐに多量の水を飲んで医師の診察を受けてください。

■ バッテリターミナル部の清掃

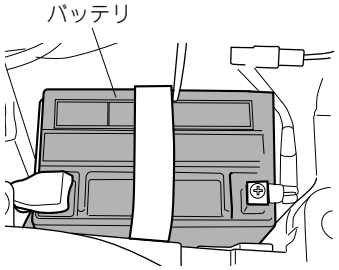
1. メインスイッチを**OFF**にします。
2. ステップボードカバーを取り外します。



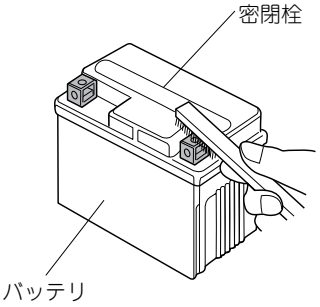
3. スクリュを外し、バッテリカバーを取り外します。



4. ㊀側バッテリコード、㊉側バッテリコードの順に外し、バッテリを取り出します。



5. ターミナル部に白い粉が付いている時は、ぬるま湯を注いで拭きます。腐食が著しい時は、ワイヤブラシかサンドペーパで磨いてください。
6. 清掃後、ターミナル部にグリスを薄く塗り、バッテリを取り付けます。



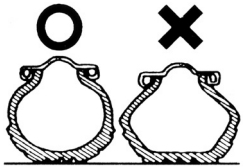
アドバイス

- **バッテリコードを外す時は、必ずメインスイッチを OFF にし、㊀側を先に外してください。取り付ける時は㊉側を先に取り付けます。**
- **ターミナル部にゆるみが生じないように締め付け、㊉側ターミナルカバーを確実に取り付けてください。**
- **密閉栓は取り外さないでください。**
- **バッテリを交換する時は、同一型式のメンテナンスフリーバッテリと交換してください。**
- **長期間使用しない場合は、3 か月ごとに補充電してください。詳細は P.62 のアドバイスをご覧ください。**

タイヤ

■ 空気圧の点検

タイヤ接地部のたわみ状態を見て、空気圧が不足していないかを点検します。
たわみ状態が異常な場合は、タイヤが冷えているときにタイヤゲージを使用して空気圧を点検し、適切な空気圧にしてください。



タイヤ空気圧

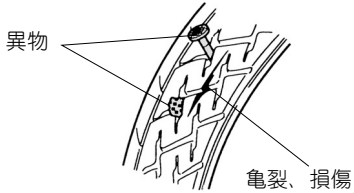
1名乗車時	前	200kPa
	後	225kPa
2名乗車時	前	200kPa
	後	225kPa

⚠警 告

不適正な空気圧での使用や、すり減ったタイヤの使用は、転倒事故などの原因となります。適正な空気圧を守り、すり減ったなら交換してください。

■ 亀裂、損傷、異物の点検

タイヤの接地面および側面の全周に、亀裂や損傷が無いかを確認します。
また、釘や石などの異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを確認します。



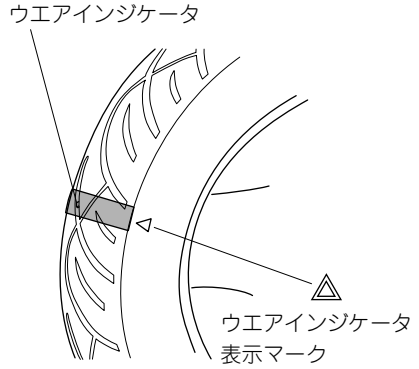
■ 異常摩耗の点検

タイヤの接地面が、異常に摩耗していないかを確認します。異常に摩耗している場合は、スズキ販売店へご相談ください。



■ 溝の深さの点検

ウエアインジケータがあらわれていないかを点検します。
ウエアインジケータがあらわれたときは、タイヤを交換してください。



アドバイス

コーナリングや操縦安定性などの安全走行のために、早めのタイヤ交換をおすすめします。溝の深さは、前1.6mm、後2.0mm以上が望ましいです。

■ タイヤの交換

タイヤを交換する場合は、必ず指定タイヤを使用してください。

指定タイヤ

前	**サイズ**	110/90 - 13M/C 55P
	種類	IRC MB99
後	**サイズ**	130/70 - 12 56L
	種類	IRC MB99

⚠警 告

指定外のタイヤの使用は、安全走行に悪影響を与える場合があります。必ず指定タイヤを取り付けてください。

アドバイス

新しいタイヤはスリップしやすいので、車を深く倒さないでください。倒す角度は徐々に大きくしてタイヤをならしてください。

お車の手入れ

洗車

お車を長持ちさせるため常に清掃をしましょう。泥道やホコリの多いところを走行した後は、すみずみまで洗車しましょう。異常などが早く発見でき、故障予防にもなります。海水に含まれる塩分や融雪剤は金属を錆びやすくします。海岸付近や融雪剤を使用した道路を走行した後は、必ず洗車してください。

1. 冷水をかけながら、スポンジまたはやわらかい布で汚れをおとします。
2. ひどい汚れは、中性洗剤を使用して水で洗い流します。
3. 乾いたやわらかい布で、水分をふき取ります。車体を乾燥させた後、ブレーキレバーやスタンドの取り付け部へグリスなどを注油し、サビ予防のためにワックスがけを行ってください。



注 記

- 洗車はエンジンが冷えているときに行ってください。
- 高圧洗車機やスチーム洗車機は使用しないでください。可動部や電装部品の作動不良や故障の原因となる事があります。
- 洗車時、マフラ、エアクリーナや電装品に水が入らないよう注意してください。水が入ると始動不良やサビ発生の原因となります。
- ラジエータに高圧の水をかけないでください。冷却フィンが損傷するおそれがあります。
- 洗車後はブレーキのきき具合が悪くなる場合があります。
  この場合は、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、ききが回復するまでブレーキを軽く作動させてください。
- シート下から強く水をかけないでください。内部へ水が入り、書類等がぬれるおそれがあります。

アドバイス

- コンパウンド入りワックスなどで、塗装面や樹脂部品を強く磨くと色むらが生じる場合があります。
- 洗車後や雨天走行後にヘッドライトのレンズが曇ることがあります。この場合は、ヘッドライトを点灯することで曇りは徐々に消えます。バッテリ上がりを防ぐために、エンジンを掛けながらヘッドライトを点灯させてください。
- 海岸や凍結防止剤をまいた道路などを走行した後は、直ちに冷水で水洗いをして乾いた布で水分を拭き取ってください。温水で洗うと塩の腐食が進行するので、必ず冷水で洗ってください。

アドバイス

下記の場所には水を噴射したり流したりしないでください。

- メインスイッチ
- スパークプラグ
- フューエルタンクキャップ
- フューエルインジェクションシステム
- ブレーキマスターシリンダ
- スロットルケーブルのブーツ

プラスチック製部品

ヘッドランプレンズ、スピードメータディスプレイ、ウィンドスクリーン、フェアリングなどのプラスチック製部品は傷つきやすいので、清掃するときは中性洗剤または石けん水で洗った後、水洗いし、柔らかい布でふいてください。

⚠警 告

フェアリングとハンドルの間に物を置かないでください。ハンドル操作に悪影響を与えます。

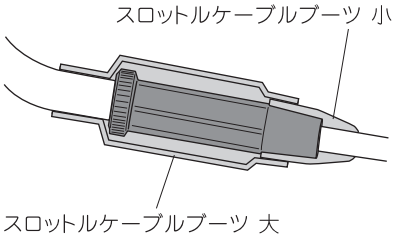
注 記

ヘッドランプレンズ、スピードメータディスプレイ、ウィンドスクリーンなどのプラスチック製部品に、以下のものが付着すると傷や部品の損傷の原因になります。

- **コンパウンド入りワックス**
- **油膜とり剤やはっ水剤などのケミカル用品**
- **酸性・アルカリ性の洗剤**
- **ブレーキ液、ガソリン、有機溶剤など**

スロットルケーブルブーツ

スロットルケーブルには、ブーツが取り付けられています。ブーツが確実に取り付けられていることを確認してください。洗車時には、ブーツに直接水をかけないようにしてください。ブーツが汚れている場合は、水で濡らした布でふき取ってください。



アドバイス

ブーツが上記のように取り付けられていない場合は、P.45を参考に取り付け直してください。

つや消し塗装

つや消し塗装の車両は、次の注意事項をお守りください。

- コンパウンド入りワックスなどで、塗装面や樹脂部品を強く磨くと色むらが生じる場合があります。
- 固形ワックスは、ふき取りが困難になることがあります。
- 使用中の摩擦や表面を擦り過ぎたり強く磨くと、つや消し表面が変化することがあります。

アルミホイール

アルミホイールは、塩分などの汚れを嫌います。アルミホイールの美しさを保つため、定期的に（週に一度くらい）清掃しましょう。

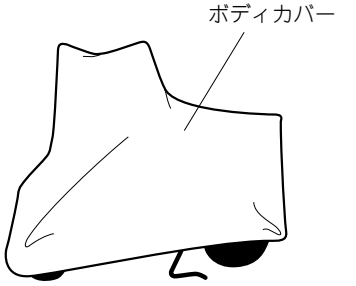
1. 中性洗剤をスポンジに含ませて、汚れを落とします。
2. 十分に水洗いをして、乾いた布で水分を拭き取ります。

アドバイス

- **アルミホイールは、傷がつきやすいため、みがき粉、硬いブラシや金属タワシなどの硬いもので擦ったり、当てたりしないでください。**
- **海岸や凍結防止剤をまいた道路などを走行した後は、直ちに水洗いをして乾いた布で水分を拭き取ってください。温水で洗うと塩の腐食が進行するので、必ず冷水で洗ってください。**

保管のしかた

できるだけご自宅の敷地内に保管し、屋外の場合は、ボディカバーをかけるようにしてください。



アドバイス

ボディカバーは、エンジンやマフラが冷えてからかけてください。

アドバイス

長期間乗らない場合は、次の事項をお守りください。

- **保管前に各部のワックスがけを行ってください。サビを防ぐ効果があります。**
- **バッテリは、自己放電と電気漏れを少なくするため、車から外し完全補充電して風通しのよい暗い場所に保存してください。車に積んだまま保存する場合は、⊖ターミナルを外してください。**

※補充電については、スズキ販売店にご相談ください。

環境を保護するために

将来、車両を廃棄する場合や使用済みバッテリ、エンジンオイルなどを廃棄する場合は、地球環境を守るため、むやみに捨てないでください。お車を廃棄する場合はお近くの「廃棄二輪取扱店」にご相談ください。

◆ 廃棄二輪取扱店とは

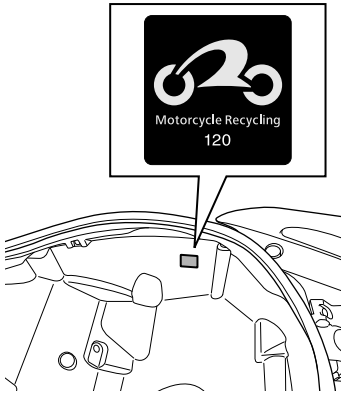
廃棄二輪取扱店とは（社）全国軽自動車協会連合会の加盟販売店で廃棄二輪取扱店として登録されている、廃棄二輪車を適正処理するための窓口です。
廃棄二輪取扱店には「廃棄二輪取扱店の証」が表示されています。



廃棄二輪取扱店の証

◆ 二輪車リサイクルマークとリサイクル料金

この車には二輪車リサイクルマークが貼り付けられています。二輪車リサイクルマークが貼り付けられている二輪車は、適正な処理を行い再資源化するための、リサイクル費用がメーカー希望小売価格および車両本体価格に含まれています。お車を廃棄する場合には、リサイクル料金はいただきません。ただしお車の運搬、収集費用はお客様のご負担となります。運搬、収集費用につきましては、お近くの「廃棄二輪取扱店」にご相談ください。



◆ 二輪車リサイクルマークの取扱い

お車を廃棄する場合には、二輪車リサイクルマークが必要となります。マークは車体からはがさないでください。紛失、破損による再発行および部品販売の取扱いはありません。
リサイクルマーク対象車両かどうか不明の場合は、下記のホームページおよびコールセンターでご確認ください。

◆ 廃棄二輪車に関するお問合せについて

廃棄二輪車に関するお問合せは、お近くの廃棄二輪取扱店または下記までお問合せください。
（財）自動車リサイクル促進センター
ホームページ：http://www.jarc.or.jp/

主要諸元

項　　目		諸　　元
長 さ		2,055mm
幅		740mm
高 さ		1,355mm
軸 距		1,465mm
最 低 地 上 高		130mm
車 両 重 量		163kg
乗 車 定 員		2人
タイヤサイズ	前	110/90 - 13M/C 55P
	後	130/70 - 12 56L
最 小 回 転 半 径		2.5m
エ ン ジ ン 形 式		4サイクル・単気筒
冷 却 方 式		水冷
燃 料 供 給 方 式		フューエルインジェクション
総 排 気 量		199cm^3
内 径 × 行 程		69.0×53.4mm
アイドリング回転速度		1,700r/min
最 高 出 力		13kW/8,000r/min
最 大 ト ル ク		16N·m/6,000r/min

項　　目		諸　　元
ク ラ ッ チ 形 式		乾式シュー·自動遠心式
トランスミッション		ベルト・自動
減 速 比		2.750
変 速 比		2.419 - 0.787
ブレーキ形式	前	シングルディスク
	後	シングルディスク
フューエルタンク容量		10L
点 火 方 式		フルトランジスタ式・バッテリ点火

サービスデータ

項目			調整値
タイヤ空気圧	1人乗車時	前	200kPa
		後	225kPa
	2人乗車時	前	200kPa
		後	225kPa

エンジンオイル量	オイル交換時	1.2L
	オイルフィルタ交換時	1.3L
	全容量	1.5L

スパークプラグ	種類	NGK	CR7EK
		DENSO	U22ETR
	ギャップ		0.6～0.7mm

バッテリ	種類	FTX9-BS
	容量	12V—8Ah

ランプ	ヘッドランプ H/L	12V 55W (H7)
	ポジションランプ	12V 5W
	ストップ／テール	12V 21/5W
	ターンシグナル	12V 21W
	ライセンスランプ	12V 5W

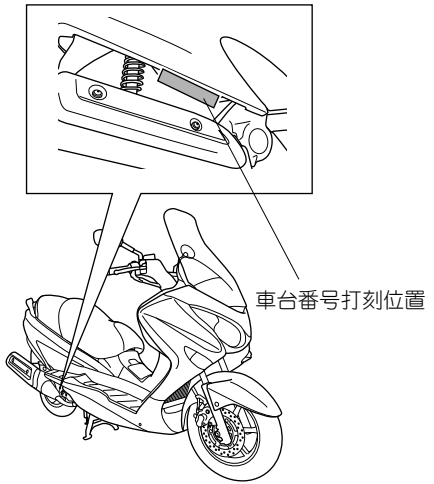
ヒューズ	10A 15A 30A

車台番号

アフターサービスなどを的確に行うため、お車の車台番号を記入しておいてください。

機種	BURGMAN200
車台番号	

車台番号はフレーム右側下部に打刻してあります。



お車やサービスなどについてのご相談、ご意見がございましたら、お買いあげのスズキ販売店またはメンテナンスノート巻末に記載されている、お近くのスズキ二輪代理店にお申しつけください。

お客様のご相談に対して的確な判断と迅速な処理をするために次の事項を必ずご確認のうえ、ご相談ください。

① 機種、型式、車台番号
② 購入年月日　④ 相談事項
③ 走行距離　⑤ ご住所、お名前、電話番号

お買いあげの販売店

［TEL］

スズキ株式会社の窓口は…
〒432-8611　浜松市南区高塚町300

スズキ株式会社

お客様相談室
◆ フリーダイヤル 0120-402253
受付時間　9:00～12:00　13:00～17:00

弊社お客様相談室におけるお客様の個人情報の取扱いにつきましては、スズキ株式会社のホームページに掲載していますのでご覧ください。
(http://www.suzuki.co.jp)

こんなときは、スズキ販売店に持ち込む前に次のことを調べてみてください。

エンジンがかからない
- かけかたは取扱説明書どおりですか？
- ガソリンは入っていますか？

ブレーキがきかない
- ディスクブレーキはブレーキパッドの摩耗、ドラムブレーキはブレーキレバーの遊びを点検してください。

ランプ類が点灯しない
- ヒューズが切れていないかを点検してください。

ちきゅうにやさしい
みどりをまもるリサイクル
VEGETABLE OIL INK
再生紙、植物油インクを使用しています。